OB 通信

鳳　翩

＝　２０２３年　１２月号　＝

【防府市　右田ヶ岳】

山口大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

鳳翩会

もくじ

						ページ
1	会長挨拶	鳳翮会会長			田村　伊正	1
2	総会報告	鳳翮会副会長			三國　彰	2
3	支部報告					
	関西支部　総会報告	関西支部　支部長			池田　純	9
	東京支部　活動報告	東京支部　事務局長			秋山　高弘	11
	九州支部　活動報告	九州支部　支部長			龍　純二	12
	山口支部　活動報告	山口支部　支部長			坂田　信一	14
4	現役報告	鳳翮会事務局長	経4年		坂本　新	15
5	同窓会だより					
	山大工学部OB会（S49年～S53年）in 常盤公園に参加して	関西支部	S52	工	吉岡　毅	16
6	エッセイ					
	失われる景色	山口支部	S60	農	齊藤　昌彦	17
	伊藤野枝の墓石	九州支部	S45	経	武富（伊藤）敏夫	18
	フロム鉄道の旅	関西支部	S48	経	上田　功	19
	房総半島の不思議なトンネル	東京支部	S50	経	塩塚　保	20
	仁保川のカワセミ	山口支部	S52	経	古谷　眞之助	21
	思いつくままに・・・	九州支部	S53	文理	山本　玉枝	23
	ススキの秋吉台	山口支部	S47	文理	野村（内田）英昭	24
	旅客機離陸の撮影スポット	九州支部	S45	経	武富（伊藤）敏夫	26
	嘘は大きなもの程バレない	関西支部	S55	経	山本　剛士	27
	秋山邦雄先輩を偲んで	九州支部	S56	経	権藤　雅明	28
7	近況報告					
	後期高齢者になったよ	九州支部	S46	文理	中村　幸子	29
	第19回富士さん登山顛末記	東京支部	S47	文理	恵谷　浩	30
	東鳳翮山「還暦登山」	九州支部	S62	理	冨田　和郎	32
	東京高尾山南東の草戸山登山	東京支部	S47	文理	恵谷　浩	34
	トンボ三昧の日々　その後	東京支部	S57	農	松沢　孝晋	36
	日本百名山登頂を達成しました	東京支部	S49	工	松永　烈	38
8	OBの皆さまへのお願	副会長	S55	工	三國　彰	40
9	2023年度本部・支部役員連絡先	会長	S53	工	田村　伊正	41
	編集後記	副会長	S57	工	田原　宏	41

１．会長挨拶

鳳翩会　会長　Ｓ５３年　工学部卒　田村伊正

年の瀬を迎え、何かと慌しい時期になりましたが、鳳翩会の会員の皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また、鳳翩会の運営への多大なご支援とご協力を頂き厚くお礼申し上げます。

今年１０月２１日に開催されました関西支部の引き受けによる総会は、池田純支部長を初め多くの関西支部の皆様のご尽力のお蔭をもちまして、滞りなく終えることができました。会場の地となりました京都府亀岡市の「湯の花温泉　渓山閣」は観光スポットも多く、会員の皆さんも楽しんで頂けたことと存じます。改めて、お世話頂いた関西支部の皆様、そしてご参加いただいた会員の皆様に感謝申し上げます。

総会では、古賀義人議長に議題のご審議をお諮り頂き、全てのご承認を頂きました。詳細な審議経過につきましては後述しますが、執行部の皆様にはご苦労をお掛けしていますが、報われた思いでホッとしたところです。

この度の総会では、会長の再選（任期２年）が承認され、引き続き会長としての責務を担うこととなりました。コロナ禍後の活動と運営について、思い悩む２年間であり、課題も多く残されています。皆様のご期待に添えますよう課題解決に取り組んで参りますので、引き続きご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いします。新たな期を迎えるにあたりましては、３つの課題の解決に取り組みたいと考えています。少子高齢化が進む社会環境にあって、同様の課題を抱えるＯＢ会の本部、支部が連携を図りながら課題解決の努力が出来ればと思います。

①　安定した財政の確保

新たなシニア層と若年層の会員数の増強を図り収入増を図りながら、会誌の電子化を推進し支出を抑制したい。

②　持続可能な本部運営の組織創り

本部役員と山口支部役員の親和性を高め、ＯＢ会の運営に係わる世代と人員を拡大し、役員の負担を軽減していく。

③　現役部員との交流促進

山口地区ならではの現役との交流機会を増やし、ＯＢ会への理解を深めて卒部後の会員加入を促す。

令和６年の秋の総会は東京支部が引き受けて頂くことになりました。会員の皆様には是非ご参加いただきますようお願い致します。今年は、近年の気候変動による異常気象による災害が多く発生しましたが、来年は平穏な年であってほしいと願っております。皆様には良いお年をお迎えされますようご祈念致します。

【令和６年度本部組織】

新役職	名前	卒年・学部	備考
会長	田村　伊正	Ｓ５３工	再任（会誌副担当）
副会長	三國　彰	Ｓ５５工	再任（名簿管理担当・会計副担当・会誌副担当））
副会長	田原　宏	Ｓ５７工	再任（会誌担当）
幹事	古谷　眞之助	Ｓ５２経	再任（前任会長）
幹事	坂田　信一	Ｓ５７理	再任（山口支部長）
幹事	田中　秀平	Ｓ４７農	再任
幹事	石川　忠	Ｓ４９教	再任
幹事	斎藤　昌彦	Ｓ６０農	再任（会計担当）
幹事	浅野　哲郎	Ｓ６１工	再任
監査役	平野　展康	Ｓ５９経	再任
監査役	日野　耕二	Ｓ５８経	再任
事務局長	木村　幸誠	3回生経	新任（前主将・坂本　新の後任）

【お願い】

ＯＢ通信の第１号から第１８号を探しております。平成元年から平成１０年７月号までのＯＢ総会の開催履歴が判ると期待しております。心当たりのある方は、ご一報ください。宜しくお願いします。また、各支部に置かれましても、活動記録を残し、貴重な資料として次世代に繋げることをご検討願います。

２．議会報告

令和５年度 YUWVOB 会（鳳翮会）総会が、下記のとおり開催されましたのでご報告します。
１　日時　　２０２３年１０月２１日（土）～２２日（日）
２　場所　湯の花温泉　溪山閣（京都府亀岡市ひえ田野町佐伯下峠２０-６）
３　議事
今年度総会においては、古賀義人（関西支部S49 年工学部卒）が議長に選出され、以下の議案が審議された。審議の結果、それぞれの議案は賛成多数により承認されました。

第１号議案　２０２２年度事業状況報告および会計決算報告と監査報告
令和４年度（2022 年１ 月１ 日～2022 年 12 月 31 日）の事業報告について三國副会長から以下の報告があった。
新型コロナ感染症対策が必要となり、ほとんどの事業が中止となっていましたが規制緩和により、活動も再開される方向となりました。2020 年、2021 年と延期になっていたOB 総会も九州支部の皆様の用意周到な準備のおかげで３年ぶりに無事開催されました。またOB 通信も３年ぶりに２回発行することができました。

【２０２２年度事業状況報告】
⑴山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援
1)卒部生歓送会への記念品のみとし、激励訪問は中止
2)現役支援金の授与

⑵役員会等の開催
役員会（WEB 会議）にて総会の実施方針を決定し、ＯＢ通信発刊の計画を立てました。
1)役員会２回（１月29 日、６月６日Ｗｅｂ会議）
2)本部役員・支部長会議（６月 19 日：Web 会議）
会誌の発刊計画、総会の実施方針等についての協議
3）2021 年度会計監査 2022 年１月 29 日監査役：斎藤昌彦、平野展康

⑶２０２２年総会の実施
１）２０２２年総会を九州支部で開催
日時　　２０２２年１０月２２日（土）～２３日（日）
場所　湯布院倶楽部（大分県由布市湯布院町川上２９５２－１
参加人数　総会５７名、懇親会５７名

2)総会における支援
総会支援金の進呈、現役への総会参加要請および参加支援

⑷「ＯＢ通信（会誌）の発行
８月号、12 月号の発刊

⑸山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援
現役の活動も 3 年ぶりに海浜合宿と夏合宿の開催が決定しました。少しずつではありますがコロナウイルス蔓延前のような活動が行える状況になってきています。活発化されてきた現役の部活支援を行いました。　海浜合宿の支援（支援金の授与；７月９・１０日に実施）

【2022 年度会計決算報告および会計監査報告】

引き続き令和４年度収支計算書について三國副会長より報告があった。

２０２２年入金会費２５,000 円と 2022年預り金会費振替３３５,000 円、寄付金３，０００円で収入の部合計は３６３,000 円です。今年度も追いコンは中止となりましたが、卒部生に記念品を渡しています。支出の部はOB 通信関連経費（８月号、１２月号）、総会費用、その他の経費で合計４４６，３７１円となります。　従って 2022年収支はマイナス８３，３７１円となります。前年度繰り越し剰余金は８２９，０６１円であり、当年収支により翌年度繰り越し金は７４５，６９０円　となります。

収支計算書（2022年1月1日～12月31日）

鳳翩会

（単位：円）

			比率
収入の部			
	2022入金会費	25,000	
	寄付金（原口孝志氏より）	3,000	
	2022年預り金振替	335,000	
	収入の部合計	363,000	100%
支出の部			
	【OB通信8月号関連】		
	1） OB通信印刷代	64,900	
	2） 葉書、封筒、コピー、用紙、タックシール代等	17,406	
	3） 郵送代	32,085	
	4） OB通信発送協力費	0	
	小計	114,391	31.5%
	【OB通信12月号関連】		
	1） OB通信印刷代	70,565	
	2） 葉書、封筒、コピー、用紙、タックシール代等	5,129	
	3） 郵送代	46,310	
	小計	122,004	33.6%
	【OB総会】		
	1） 総会支援金	60,165	
	2） 記念品代	36,445	
	小計	96,610	26.6%
	【その他】		
	1） 会計監査参加助成金	1,600	
	2） 記念品代	16,459	
	3） ホームページ運営費	5,307	
	4） 事務局費	10,000	
	5） 現役支援金	50,000	
	6） 海浜合宿支援金	30,000	
	小計	113,366	31.2%
	支出の部合計	446,371	123.0%
収支			
	2019年収支	−83,371	−23.0%
剰余金			
	前年度繰り越し	829,061	
	翌年度繰り越し	745,690	

次に、2022年12月31日現在の貸借対照表について報告があった。預金の期首残高1,826,061円。当年入金会費等の増加354,000円、当年経費支出等による減少446,371円で、預金の期末残高は1,733,690円となる。（広島貯金事務センター振替受払通知表　36号（令和4年12月29日）の現在高と一致）　会費預り金の期首残高　997,000円、当年会費入金354,000円、当年会費への振替360,000円であり、会費預り金の期末残高は988,000円となった。なお、会費預り金988,000円の2023年以降の内訳は期末残高のとおりとなる。剰余金の期首残高は829，061円、当年の収支はマイナス83，371円であり、余剰金の期末残高（翌年度繰越金）は745,690円となる。以上から負債及び余剰金を合計した期末残高は1,733,690円となった。

貸借対照表(2022年12月31日現在)

鳳翩会
(単位:円)

	科　　目	期首残高	当　　年		期末残高
			増加	減少	
資産の部	現金	0	0	0	0
	預金				
	広島郵便貯金センター	1,826,061	354,000	446,371	1,733,690
	預金計	1,826,061	354,000	446,371	1,733,690
資産合計		1,826,061	354,000	446,371	1,733,690
負債の部	未払費用	0	0	0	0
	会費預り金				
	2022年	335,000	25,000	360,000	0
	2023年	244,000	79,000		323,000
	2024年	163,000	65,000		228,000
	2025年	113,000	57,000		170,000
	2026年	76,000	48,000		124,000
	2027年	22,000	41,000		63,000
	2028年	12,000	13,000		25,000
	2029年	12,000	7,000		19,000
	2030年	10,000	7,000		17,000
	2031年	4,000	7,000		11,000
	2032年	4,000	2,000		6,000
	2033年	2,000	0		2,000
	2034年	0	0		0
	2035年	0	0		0
	2036年	0	0		0
	2037年	0	0		0
	2038年	0	0		0
	2039年	0	0		0
	寄付金等	0	3,000	3,000	0
	会費預り金計	997,000	354,000	363,000	988,000
負債合計		997,000	354,000	363,000	988,000
剰余金	剰余金	829,061	−83,371	0	745,690
負債及び剰余金合計		1,826,061	270,629	363,000	1,733,690

振替受払通知票　　01530−0−　16050　　令和　4年12月29日

広　島　貯金事務センター

通知番号及び越高			36　号	1，727，690円
受入れ	通常	払込金（一般）	口	
		払込金（新帳票）	3	6，000
		払込金（ＤＴ）		
		払込金（ＭＴ）		
		振替受入れ		
		公金払込み		
		自動払込み		
		その他受入金		
	電信	払込金		
		振替受入れ		
払出し	通常	現金払出し		
		振替払出し		
		簡易払		
		その他払出金		
	電信	現金払出し		
		振替払出し		
		加入者即時払		
		小切手払渡し		
	料金			
現在高				1，733，690

料金内訳	
払込料金	円
払出料金	
振替料金	
その他料金	

小切手番号

小切手支払保証
円

明細番号	始番号	終番号
電信受		
電信払		

次に平野監査役より以下の監査報告があった。
「令和５年１月２８日、監査平野展康と日野耕二は、令和４年度の会計帳簿、経費支出伺兼経費支出報告書と会計決算報告書の提出を受け、会計監査をおこないました。その結果は監査報告書のとおりであり、当年の収支計算及び期末現在の財産状況は適正であることを確認しました。

監査報告書

１．　監査実施年月日

令和５年　１月２８日（土）

２．　監査の場所

やまぐち県民活動支援センター　交流ルーム

３．　監査に立ち会った者

鳳翩会 会長　　田村　伊正

鳳翩会 副会長　　三國　彰

４　監査平野展康並びに日野耕二は、鳳翩会令和４年度収支決算書の提出を受け、各帳簿、証拠書類について、監査を行った結果、適正に処理されていることを認めた。

令和５年　１月２８日

鳳翩会

監査員　平野 展康

日野 耕二

【付記として】
2021 年度会計決算報告の修正について三國副会長より以下の報告があった。
「2021 年会計決算報告におきまして収支決算書の収入の部における会費の記載について、誤りがありましたので修正を報告いたします。収入金額に変更はありませんが、　山本夫人および池富士夫人よりいただいた寄付金を会費として計上していましたので、事後修正させて頂きました。この場をお借りして執行部一同よりお詫び申し上げますと共にご了承願います。」
古賀議長により審議が諮られ、２０２２年度事業状況報告および会計決算報告と監査報告が承認されました。

第２号議案　令和５年度事業実施（予定）報告及び事業予算案について

引き続き令和５年度事業実施（予定）報告および事業予算案について三國副会長より報告があった。

【２０２３年度事業計画】

新型コロナ感染症対策規制緩和により、活動も再開される方向となりました。まだ予断は許されない状況ですが令和５年度も総会開催予定であり、総会支援を行う予定です。またOB通信も２回発送予定です。現役学生の活動も昨年より活発化してきており、引き続き積極的な支援を行う予定です。

①　２０２３年度 上期事業経緯報告

⑴山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援

1)卒部生歓送会への記念品のみとし、激励訪問は中止

2)現役支援金の授与

⑵役員会等の開催

役員会（WEB会議）にて総会の実施方針を決定し、ＯＢ通信発刊の計画を立てました。

１）2022年度会計監査　2023年１月28日に実施　監査役：日野耕二、平野展康

２）本部役員・支部長会議（６月30日：Web会議）

総会の実施方針、OB通信の発刊計画等について協議

⑶２０２３年総会の実施

開催日時；10月21～22日、　　開催場所；湯の花温泉　渓山閣

②　２０２３年度 下期の事業予定

⑴総会における支援

1)総会支援金の進呈予定

2)現役への総会参加要請および参加支援予定

⑵「ＯＢ通信（会誌）の発行

1)８月号の発刊（８月１２日発行予定）

2)12月号の発刊

⑶山口大学ワンダーフォーゲル部に対する支援

本年度現役部員の入部は14名で部員４５名となり、学生の活動も活発化してきています。合宿他の活動に加え、８月には海浜合宿、３年ぶりの中四合ワンも開催予定とのことです。引き続き学生への支援を行う予定にしています。

1)海浜合宿の支援（海浜合宿支援金の授与；合宿は８月中旬に実施予定）

2)支部活動への参加要請

【事業予算案について】

令和５年９月３０日における会計の入出金状況と今後の支出見込みについて報告します。

１．入金

2023年会費預り金振替	323,000	
2023年入金会費	29,000	
寄付金	6,760	S57卒 OBより
合 計	358,760	

２．支出

（１）既支出金		
2022年ＯＢ通信８月号関連	151,481	
OB通信印刷代		89,265
葉書、封筒、用紙、タックシール代		14,756
郵送代		44,260
送付作業協力金（学生）		3,200
その他	135,517	
会計監査参加金（学生）		1,600
記念品代		38,610
ホームページ運営費		5,307
事務局費		10,000
現役支援金		50,000
海浜合宿助成費（萩）		30,000
小　計	286,998	
（２）今後の支出見込金		
総会支援金（関西支部へ）	60,000	
総会(現役参加支援；２名)	54,160	
OB通信12月号発行経費	100,000	
小　計	214,160	
合 計	501,158	

３．差し引き残高見込

入金	358,760	
支出	501,158	
収支	▲ 142,398	

４．繰越金見込

前年度繰り越し金	745,690
今年度収支見込	▲ 142,398
次年度繰り越し金見込	603,292

古賀議長により審議が諮られ、令和５年度事業実施（予定）報告及び事業予算案が承認されました。

第３号議案　役員の改選

三國副会長より、「鳳翩会　会長等役員選出要領」に従い、三國副会長が会長選考委員長となって、以下の選考委員に諮り会長候補者の選考をしたとの報告があった。

【選考委員】古谷、田村、三國、田原、平野、日野、城戸、池田、坂田、龍　計１０人

【選考結果】田村伊正（現会長）昭和５３年　工学部卒

古賀議長により審議が諮られ、田村現会長の再任が承認されました。

第４号議案　2024 年（令和６年）総会開催地について

古賀議長より 2024 年秋季の総会開催地について、東京支部での開催引き受けの打診がされ、城戸東京支部長が引き受けを表明し、以下の内容を説明した。

日時：2024 年１０月２４日（金）２５日（土）

場所：青梅市「清流の宿　おくたまの宿」

古賀議長により審議が諮られ、東京支部での開催と日程及び場所について承認されました。

その他

①　田原副会長より会誌「鳳翩 2023 年 12 月号」の原稿の募集要項について以下の説明がなされた。

締　切：　11 月 23 日(木)　必着

提出先：　各支部長あて（各支部長は取りまとめて編集部まで送付下さい）

募集テーマ：（例）Ａ『近況報告』　Ｂ『同期会報告』　Ｃ『思い出の山』　Ｄ『自由テーマ』
Ｅ『各支部の活動報告』　Ｆ『現役の活動報告』など

なお、提出原稿を作成する際は下記の留意点を遵守してください。

⑴文章の中の写真及び自筆絵画の大きさ（最大 1/3 程度）

⑵ワード使用（10.5 ポイント、HG 丸ゴシック体　48 行、48 列）『定型フォーム』有

⑶原稿制限（A4 版で３ページ程度まで）

⑷寄稿者名の表記

・〇〇支部（長）　S〇〇年　〇〇学部卒　×××

・〇〇学部　〇〇学科　〇〇年　〇〇長（担当）　×××

⑸原稿の表題表記（太文字　10.5 ポイント、HG 丸ゴシック体）

今後、締切は設定しますが、原稿をいつでもお受けしますので書かれたときに投稿してください。受付けました原稿については発行直近のＯB 通信に掲載させていただきます。

もし、掲載可であれば電話、メールアドレスも書き添えていただいても結構です。記載あれば無条件に掲載いたします。

②　三國副会長より歳出費削減について取り組みについてお願いと方針の説明があった。

⑴会員の増強に協力のお願い

シニア世代の同級生への会員勧誘と支部活動への参加による会費収入アップ。

若齢層の支部活動への参画を促し、会員に勧誘するための支部との情報（メール）共有に努めたい。

⑵ＯＢ通信（会誌）の郵送削減と電子媒体やＨＰの活用による歳出費の削減を検討していきたい。

③　会員からの提案意見の紹介

田村会長から、欠席会員の方からの「会員資格と監査役責務について会則変更」検討要望について、説明があった。今後、ＷＥＢ本部・役員会で検討し、次回の総会に付すか決めることを前提に、出席者の意見を募ったところ以下の意見があった。

⑴会員資格については現行で良いとの発言があり、賛同の声多数。他の意見は無し。

⑵監査役の責務については、現状の会計監査で良いとの発言があり、賛同の声多数。他の意見は無し。

3．支部報告

２０２３年　関西支部での総会報告（於　10月21，22日京都亀岡）

関西支部長　S51年　工学部卒　池田　純

今年度10月21から22日に京都府亀岡市の渓山閣にて行われた総会についてご報告します。

１．準備

コロナの影響で、総会中止の年度が続いたが 2022 年の秋九州地区での総会はどうも開催される確率が高まった。総会が開催されれば次年度の開催場所である関西で総会の準備をしなければならない

１月28日　武田尾温泉　田熊商店　にて　１回目の打ち合わせ

ここ田熊商店は、西宮名塩からの旧福知山線の廃線跡ハイキングコースの終点にあり昼間から飲める居酒屋である。ここでの決定事項

開催場所：京都亀岡湯の花温泉　渓山閣　日時　10月21日、22日

散策コース　半国山他

幹事（敬称略）　上田　金子　尾儀　古賀　秋山（吉岡　後日参加）　高月　田村　森　池田（久美）田中　池田　清（愛知県から特別参加いただく）

関西地区はマンパワーが少ないので、行事等は圧縮することとする。

３月19日　半国山下見

３月18日（土）の予定だったが天気悪く　19日（日）に変更

JR嵯峨野線千代川駅に集合、千ケ畑口の登山口から頂上、音羽渓谷へおりるハイキングコース

参加者　上田　金子　尾儀　高月　森　池田

コースタイム

10:37（バス）→11:11 登山口→12:15 稜線→12:35 頂上→13:00 頂上出発→14:19 音羽の滝→15:00 赤熊バス停

下りの道が荒れ気味であるが、コースタイム4:00程度のため使えそうと判断。当日は、旅館8:16のバスにのりコースタイム+αで下山口の赤熊バス停12:24の亀岡駅行に乗れそうだ。

６月３日打ち合わせ予定するも中止

９月23日　渓山閣下見ツアー

能勢電車山下駅 10:00 集合→阪急バス豊中センター行→10:47 豊中センター→11:00 喫茶店にて打ち合わせ→12:12 広野バス停→　ふるさと　バスガレリヤ亀岡行→12:35 茶屋バス停→渓山閣

このとき旅館との打ち合わせミスで、会費不足が発覚。事前に参加者へ会費値上げを連絡する旨決定

旅館の送迎バスのキャパも不足で、支部会員の自家用車を補助として使うことを決定する。

ふるさとバスは登山口を通過するのでその場所を確認した。打ち合わせ後昼食（温泉付き）

10月１日

工学部49年50年卒部同期会に出席。この時田村会長に、参加費値上げ申請とお詫びの葉書の承認いただき、参加者全員に郵送した。（住所不具合郵送葉書返却者には、別途メールで連絡）

２．総会

10月21日

葉書の連絡事項を参加者皆さんよく守っていただき、14：40亀岡駅発及び15:30トロッコ亀岡15:40亀岡駅発の送迎バスでほとんどの方が旅館到着つつがなく総会を始めることができた。

17:00からの総会は、秋山氏の進行、議長は古賀氏で無事終了。19:00より田中氏の進行で宴会スタート。コロナ余波を懸念し放歌等はしなかったが現役２名での現状報告いただいた。

２次会は、各自の部屋と今回カラオケルームをレンタル。カラオケルームは雑談場所として想定していたが意外と本来のカラオケとして使われた。ただし山の歌の音源が少ないのが、少し残念。１名体調を崩されていた方がいたが、翌日は元気に回復されていた。

10月21日

山散策（半国山）

ふるさとバス（公共バス）で出立。

コースタイムは次の通り

茶屋バス停　08：16→0840　登山口　0845→林道　09：20＊1　休憩　09：27→09：55　送電線鉄塔下　10：00　→　10：52　半国山頂　11：00→（＊2　恵谷／上田　別行動）11：27　牛つなぎ場　11：33→　12：35　音羽の滝　12：40→　13：10　林道出会→　13：15　→　13：25　先行者に出会う　　→　　送迎車で亀岡駅へ

半国山の千ケ畑からの登りコースは、地味だがバス停の高度が高いので頂上までの登頂時間は短い。林道を過ぎるとうっそうとした植林地帯で迷いやすく、今回正規の登山道？より東側の送電線の保守用の道を通ったようで時間を要した。下りも最近の大雨で登山道が荒れておりスリップしやすく慎重に下山したため想定した時間を約１時間半超過。したがって予定していたバスには乗れず自家用車で全員亀岡駅に送迎した。この辺は反省材料である。幸い天候には恵まれ見晴らしの良い山頂からは遠く大阪湾を展望でき参加者には楽しまれたことと思うが、下りでは大変ご苦労をかけたとコース選定者は反省。

半国山頂上にて

山に行かない方のほとんどは、8:40 の旅館の送迎バスに乗車、亀岡駅まで帰られた。一部の方はここから保津川下り、下船後嵯峨野めぐりと京都北西部の観光地を存分に楽しまれたようで当地区を開催場所に選定したメリットが生かされたと思う。　　以上

東京支部　活動報告と2024年OB総会のご案内

東京支部事務局長　S53年　経済学部卒　秋山高弘

1.　活動報告

前回、7月に暑気払いを行ったことまではご報告しましたが、それ以降の支部活動はありません。次回は、12月2日（土）に奥多摩の「高水三山【高水山（759m）・岩茸石山（793m）・惣岳山（756m）】」に登る予定です。下山後は沢井ガーデン（酒造メーカーが営業する渓流沿いの飲食処）にて打ち上げを行います。

2.　2024年OB総会のご案内

城戸支部長より10月21日に行われた関西支部主催のOB総会の場でご案内しましたが、2024年のOB総会は、東京支部が開催させていただきます。

日時：**2024年（令和6年）10月25日（金）・26日（土）**

会費節約のため初の平日開催となりますので、ご注意ください。
現役の方には申し訳ありませんが、早めに休暇取得の計画をお立てください。
翌日の日曜日を利用して、東京見物はいかがでしょうか？

場所：清流の宿「おくたま路」

〒198-0171　東京都青梅市二俣尾2-371　　TEL0428-78-9711
https://www.tokyo-okutamaji.jp/

三方を多摩川に囲まれ、緑とせせらぎに包まれた、清流の宿「おくたま路」を、借り切ってOB総会を開催します。（他のお客に気兼ねはいりません。）
奥多摩の、御岳山や御岳渓谷をお楽しみください。また温泉にも浸っていただけます。

散策等のご案内：

御岳山、高水三山、御岳渓谷、などにご案内する予定です。

最後に：

2024年OB総会開催を踏まえ、調査を開始したのが今年初めでした。驚いたことにコロナ明けの東京では、物価上昇と人手不足とで驚くほど宿泊費や宴会費用が値上がりしていました。また、開催時期の10月は結婚式シーズンでもあり、そちらを優先したいと予約すら受け付けてくれないところが多いことも判ってきました。都心のホテル、郊外のシティーホテル、行楽地のホテルなど、様々な宿泊施設に当たった結果、会費節約のため平日開催やむなしの結論になりました。本部・支部合同のWEB会議を経て開催日時・場所が決まったのが6月末でした。今はどこの宿泊施設も1年前からWEB予約が入ってきます。なんとか夏までに来年の開催場所を決めておきたいと考えた結果でした。

会場となる「おくたま路」は温泉にも浸かれる渓流沿いの宿です。（HPをご覧ください。）
今回は宿を借り切っての開催としました。他のお客様に気兼ねすることなく、（と言って暴れてもらっても困るのですが・・）和気あいあいとOB会が出来るのではないかと思っております。

会費を下げるべく平日開催としたのですが、貸し切りですから、たくさんの方々に来ていただかないと目的は達成できません。（要は、割り勘の論理。）
どうか、どうか、奮っての皆様の参加をお待ちしています。東京支部では、早くから開催場所は奥多摩と決めて、今年の支部活動は全て奥多摩で実施してきました。来年も着実に準備を進め、皆さまをお迎えしたいと思います。宜しくお願いいたします。　以上

九州支部活動報告

九州支部長　S50 年　文理学部卒　龍　純二

OB 通信８月号以降の活動報告をいたします。

７月 29 日（土）暑気払い　　場所：大名つつじ庵
出席者１０名：永沼、中村、山本、弟子丸、桑江、堀、前田、富田、天野、龍
議題：故秋山邦雄兄を偲んで-鳳翩会九州支部活動記録-発送の件、本部支部合同オンライン会議の報告、
　　９月からの活動予定

いつもの大名つつじ庵で暑気払いを行いました。
久しぶりの中村さんの参加あり。永沼さんは天神に出てくる楽しみは、東北のアンテナショップ「みちのくプラザ」でいぶりがっこを購入することと言われていた。私も試してみて、すっかりファンになりました。コロナ禍が終わって皆で集まることができるようになり楽しみが増えました。

９月 23 日（土）　日帰り山行：井原山・雷山
参加者５名：中村、岩本、桑江、富田、龍

予報では秋のお天気になるとのことで、青空を期待していましたが、山頂近くからガスがかかったり切れたりで、北からの風が終始吹いていました。三瀬峠から佐賀県側の林道に入り古場渓流の里から井原山～雷山を周回するコース。井原山までは比較的楽な道でしたが、井原山から雷山までの縦走路のアップダウンはとてもきつく感じました。雷山山頂手前で中村さんの足がつるアクシデントがありましたが、無事に登山口まで周回できました。雷山山頂では、足がつったときによく効くと言われる ツムラの漢方薬が話題になり、偶然に居合わせた他の登山者の方がその漢方薬を持っておられて、こころよく分けていただきました。

１１月１１日（土）　デイキャンプ：今宿野外活動センター
参加者 11 名：永沼、武富、中村、木下、山本、堀夫妻、光山、太田、天野、龍

４年ぶりに今宿野外活動センターでデイキャンプを行いました。S59 年卒の大田さんが九州支部の活動に初めて参加され、皆の自己紹介から始まりました。「堀ちゃん牧場」の美味しい最高級の肉をいただきました。バーベキューのあとは武富さんの農園で恒例のいも掘りを行いました。サツマイモ、サトイモ、チンゲン菜、沢山収穫させていただきました。有難うございました。

４年ぶりのデイキャンンプ

武富さんの農園でのイモ掘り

山口支部活動報告

山口支部長　S57年　理学部卒　坂田信一

2023年10月28日　防府市右田ヶ岳ハイキング

出席者　10名：　田村（S53 工）、三國（S55 工）、坂田（S57 理）、平野（S59 経）、川地（H26 農）、現役部員5名
場所　防府市　右田ヶ岳

10月28日、防府の右田ヶ岳において山口支部交流会を行いました。　なんと！　今回の交流会には、現役部員が参加してくれました。前々から、「現役部員を巻き込んで支部交流会ができれば、これまでにない意義を持つ行事ができるはず。これは山口支部にしかできない活動」とは思っていたのですが、現役へのアプローチのチャンネルが希薄で実現できないでいました。一方、この1、2年、海浜合宿支援、OB 通信発送の共同作業化、総会への現役の招待など、OB と現役の交流機会が多くなり、距離がずいぶん近くなってきていました。このような背景を受けて、今回、支部交流会への現役の参加が実現しました。

10月28日、OB の車で現役部員をピックアップして、右田ヶ岳ふもとの「塚原駐車場」に集合。記念撮影を行い出発。「天徳寺」の境内を通過すると、急登がスタートしました。右田ヶ岳は防府の街のすぐ近くにあり、簡単に登れそうな感じですが、高齢者には大変厳しい山でした。詳しく説明しますと、普通の急登であれば、歩幅を靴の長さ程度にしてゆっくり地道に登っていけば良いのですが、右田ヶ岳はごつごつした岩の急登道で、一歩で大きな岩に上がるという動作で登っていくことになります。結果的に太ももの力で体をむりやり上げるというスクワット。これが山頂まで続きました。「えーこんなにきついの？」と現役をのぞいて全員が思っていたものと推測しています。きつくはありましたが、若い現役部員と登る楽しさや、眼下に広がる防府の街や周辺の雄大な山々の景色を楽しみながら登ることができました。途中、現役の「炭水化物不足」を差し入れのお菓子で補給し、山頂に到着。山頂では、お弁当を食べ、お湯を沸かしてインスタントスープを飲んで、防府の街や瀬戸内海などを広く眺めて気分の良い時間を過ごしました。下山は、山頂から北東方向に少し縦走して、塔之岡コースの急な下りを進みました。急な下りでは体を止めるために太ももの力が必要で下るのも大変でした。なんだか、大きな山に登って降りているような疲労感とつま先の痛みをこらえつつ下山し、駐車場に到着しました。脚の筋肉はへとへとになりましたが、現役部員と一緒に登れたことを大変喜んだハイキングでした。今回、私が、参加記念品作り参加者に配布しました。思い出の詰まったいい記念品になったものと思います。なお、高低差約４００mを約１時間３０分で登ったので（約1時間で３００m）、普通のスピードで登れたのではないかと思います。

コースタイム：

天徳寺（高度34m）；	11：20
山頂（高度426m）；	13：00
山頂出発；	13：50
塔之岡駐車場；	15：11

4．現役報告

現役の活動報告

鳳翩会事務局長　経済学部　４年　坂本　新

始めに

今年は、私の４年のワンダーフォーゲル部歴において初となる、全ての合宿をスケジュール通りに開催することができる年となりました。長引くコロナ渦による部活動存続の危機を乗り越え、60 年を超える山大ワンゲル部の歴史を絶やすことなく次の世代に受け継ぐことができたことを、大変うれしく思っております。

夏合宿について

今年の夏合宿は長野県から山梨県に跨るハヶ岳で縦走を行いました。参加部員を２つのグループに分け、８月 21 日～8 月 24 日と 8 月 28 日～8月 31 日の二つの日程に分けての開催となりました。登山の前日は長野県側の麦草峠に宿泊したのですが、2000m を超える標高のため真夏にもかかわらずとても涼しく、宿泊中は快適に過ごすことができました。入山当日の朝は天気に恵まれ、とても綺麗な朝焼けを見ることができたことが印象に残っています。部員の中に縦走を経験したことがある人が少なかったため、入山する直前までは不安感が漂っていましたが、いざ入山してみるとそこにはとても神秘的な自然が広がっており、登山中はその美しさに魅了されていました。苔むす森の木漏れ日がキラキラと揺れる道を歩いていたかと思うと、ゴツゴツとした岩場や低木が一面に生い茂る道に変わるなど、周りの景色が目まぐるしく変わっていく様子を感じるのも非常に新鮮で楽しい経験でした。夜は山中にテントを張って過ごしたのですが、普段大学の周りにいるときに見える星よりもはるかに多くの星を観ることができ、時間も忘れて皆で夜空を眺めていました。重い荷物を背負っての山行に加えて、慣れない山中泊でしたが、その疲れが吹き飛ぶくらい綺麗な夜空でした。山の中で出会う登山客の方々との交流も登山の醍醐味の一つだと思うのですが、登山道ですれ違う登山客の方々から、「頑張って。」や「もう少しで頂上だよ。」などの温かい言葉をかけていただき、その言葉が励みになったことを今でも鮮明に覚えています。

今回の夏合宿を、大きな事故なく完遂できたことに大きな達成感を感じています。また、多くの新入生が経験が少ないながらも積極的に参加してくれたことを大変うれしく思いました。コロナ渦以前のように縦走を伴う夏合宿を開催できたことも、部員にとってとてもいい経験になったと思います。

OB 総会や山口支部交流会への参加について

10 月 21 日・22 日に京都府亀岡市にて開催された OB 総会において、現役生から坂本と木村が参加し、現役報告や登山を行いました。また、10 月 28 日に防府市の右田ヶ岳で行われた山口支部交流会にも現役部員５名が参加しました。それぞれの会においては OB・OG の方々から貴重なお話をお伺いすることができ、本当に有意義な時間となりました。

最後に

ワンダーフォーゲル部の日々の活動や合宿の開催、また OB 総会の参加等におきましては、OB 会の皆様方から多大なるご支援・ご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。この場をお借りして OB・OG の皆様に感謝申し上げます。

６．同窓会だより

山大工学部 OB 会（S４９年～S53 年）in 常盤公園に参加して

関西支部　S５２年　工学部卒　吉岡 毅

例年になく暑い夏だった。秋１０月１日、２日に常盤公園キャンプ場にて OB 会を開催するとのメールを受け取る。７０の爺さんたちが大勢揃ってキャンプかよ。アメリカだとホームレスに間違われる。なぜ宇部市内のホテルじゃないのと思った。
S50 年卒の香月さんが幹事で、５１年卒の小林さんが副幹事であり、私の同期は都合で誰も参加しないので、これは参加せざるを得ない。さっそく、参加のメールを返信した。最近、トレランのレースで山（伊吹山、風越山、大江山など）に登ったり、レースの前泊についでに登山（大山、氷ノ山）をしているが、テント泊をしたのは何十年も前で、寝袋持参と言われても持っていない。不参加が頭をよぎるが、卒業以来お会いしていない先輩方も多いので、腹をくくって諸先輩たちのため、料理・テント設営などを兵隊になって働くことにした。
新山口駅で田村 OB 会長の車に同乗させてもらい、常盤公園キャンプ場へ行き、さっそくテントの設営を工学部現役生４名も一緒になってする。動員されてご苦労様としか言いようがない。これらのテントは先輩たちの私物である。私も子供が小さい時は、持参のテントでキャンプしたが、もう何十年も前のことだ。
バーベキューの火おこしをするが、意外と手間取る。先輩たちは、手際よく肉・野菜を処理して配布される。とても身のこなしが軽い。乾杯して宴会に入るが、用意したスクリーンを木の枝に括り付けて、PC から歌詞を映し出す。メールでの書面の中で「歌集を添付したので各自プリントして持参してください」と記載されていたがどこを探してみても添付資料がなかったが、意味が分かった。それを見ながら山の歌を歌い、副幹事の小林さんが編集した各年次のワンゲル時代の懐かしい写真を見ながら、あっという間に夜は更けていった。５本ほど缶ビールを飲んで田村会長差し入れの獺祭をぐびぐび飲むうちに酔っぱらって、記憶ははっきりしないうちにテントでなくてタープの下に嫁から借りた寝袋で寝る。
朝6時前ビールの空き缶をつぶす音で目が覚める。年寄りの朝は早い。朝食は、ダッチオーブンでホットサンドとドリップコーヒーに雑炊。食パンに野菜・ハム・チーズなどを挟んで専用の器具に入れて焼く、年を感じさせなくて とても手際が良い。テントを撤収し、香月幹事のあいさつで解散となる。香月さんに現役の時よくしていた巻頭言を期待していたが、長いことしていないとのことでそのまま解散になる。
「感激あれ 若人よ 感激なき人生は空虚なり 汝が前に高く高く理想を掲げん さすれば道はたんたんと開かん」 私も主将の時よくがなっていたが、理想を掲げそこなった。
帰りに駅まで送ってもらう道すがら、同乗のお二人に 「もし 学生からもう一度人生をやり直せるといわれたらどうする？」と尋ねると 「いや～ もういいか」と言われ、私もそうかなと思った。卒業以来４０年以上たったが、十分人生を楽しんだし、もう一度と言われると考えてしまう。それなりの人生ということかな。
３年前新卒以来勤めていた会社を退職し、今でも同期入社の友人十数名と LINE 友達で年に 2、3 回宴会をしている。たった 4 年間だったけれどワンゲルの時のほうがはるかに濃い人間関係だったと思う。 最年少として新入生のように働くつもりでいたが、ほぼ参加するだけになってしまった。開催されるにあたってずいぶんご苦労もあったと思いますが、お陰でとても忘れられない楽しい時を過ごすことができました。ありがとうございました。みなさんいつまでもお元気で。

5．エッセイ

失われる景色

山口支部　S60 年　農学部卒　齊藤昌彦

景色も見慣れてしまうと、以前に何があったのかを忘れてしまいます。年のせいかもしれませんが。

それは、さておき、私が長年働いていた建物が今年で取り壊されることになりそうです。時代という流れの中ですが、何か寂しいものがあります。この建物が建ったのが昭和 43 年頃なので、今から 55 年以上前です。

貯水塔がシンボルとなり、目立つ存在でした。ここで 20 年近く働きましたが、次第に水廻りのトラブルや外装の剥離等の老朽化が目立つようになり、不便を感じるようになっていましたが、先輩方からの思い入れのある建物であり、場所でした。

今は、取り壊されるのを待つために周辺も草で荒れ果てていますが、前庭や池が四季を通じて、心和ませてくれたことを思い出します。

建物がなくなってしまうときっと何があったのかを忘れる人が増えると思いますが、この写真が在りし日の存在を残してくれればと思います。

伊藤野枝の墓石

九州支部　S45 年　経済学部卒　武富(伊藤)敏夫

生誕 100 年や没後 100 年を迎えると、生誕地でイベントが開催されることがあります。

幕末の狂人と言われた「吉田松陰先生」は、老中間部詮勝(まなべあきかつ)を討つという計画を立てたなどの罪で、安政六年(1859)10 月 27 日、江戸伝馬町の獄で処刑されました。

昭和 34 年(1959)は、「吉田松陰先生」没後 100 年を迎え、「吉田松陰先生百年祭記念事業推進会」により、書籍の発刊などの記念事業が行われました。記念事業の一つとして、貞永信義選手が萩市内を走りました。その当時私は小学 5 年生でしたが、松陰神社前で応援したことを覚えています。

大正時代の女性解放活動家伊藤野枝(以下野枝という)は、大正 12 年(1923)関東大震災の約 2 週間後の 9 月 16 日、大杉栄の思想が政府にとって危険だと考えた憲兵隊により大杉栄らとともに殺害されました。9 月に終了した NHK 朝ドラ「らんまん」の第 125 話では、大喜(万太郎の子供)が新聞記事にあった渋谷の憲兵隊による無政府主義者への暴力に腹を立てるシーンが出てきます。野枝没後 100 年と何か関連があったのでしょうか。

野枝は、現在の福岡市西区今宿に生まれ、能古島まで泳いだというエピソードも残っています。今年が没後 100 年を迎えるため、郷里の福岡市では、書簡や作品を通じて思想と故郷との関係に迫る企画展も開催されました。

「JR 今宿駅南側にある鐘撞(かねつき)山には、長さ約 1.5m、高さ約 1m の自然石が博多湾を見下ろすように置かれている。かつて駅近くにあった野枝の墓から転々と移された無名碑の墓石がある。」という新聞記事を見て、9 月 30 日鐘撞山に登りその墓石を見に行くことにしました。

鐘撞山は叶岳や高祖(たかす)山などの一部をなし、高祖山の北に位置しています。叶岳や高祖山は約半日程度で縦走することができるため大変人気がある山です。土日や祝日になると近郊からトレイルランやトレッキングを楽しむ人やグループで、叶岳登山口の駐車場はいつもいっぱいとなります。また、叶岳は山頂に叶岳神社があり、元旦の初日の出を拝むため大勢の登山客が訪れるところです。

今回は叶岳登山口の駐車場から鐘撞山に登った後、九大学研都市へと下り野枝の墓石に立ち寄り、元のところへ戻るコースとしました。距離は 9.5km でコースタイムは休憩を含め 3 時間 40 分です。

鐘撞山登山口からは急登の連続で、高度を一気に稼ぎ 314m の山頂に到着です。北から北西方面には博多湾に浮かぶ能古島、糸島市街と可也山が望まれます。南方面に目を転じると右手に高祖山、左手に叶岳、高地山の向こうに飯盛山、そして、その奥には背振山も見えます。山中では秋の七草のハギや桔梗の花が今を盛りと妍(けん)を競っています。

鐘撞山の山頂から直接下る女原(みょうばる)へのルートもありますが、九大学研都市登山口へと下山し若宮八幡宮を経て、野枝の墓石がある方面へと向かいます。しばらく登り道の林道を進み左側に見える新貝(甲)池あたりを過ぎると、右手に山の中に入って行く道があり、ここが野枝の墓石の入口です。入口や墓石付近には標識がないため、墓石を探しながら歩きました。墓石がわからずあきらめて引き返そうとし、蜘蛛の巣を取り払うため、小高いところに目をやると墓石があることに気づきました。右の写真ように現在は雑木が生い茂り博多湾は見ることができません。墓石には造花とコップが置かれており、そのコップに持っていたお茶を入れ礼拝しました。

新聞記事には「近年、野枝の生涯に共感したファンが多く訪れる」と書いてありましたが、標識などがないのが残念です。いつも赤いテープとはさみをリュックに入れ持ち歩いていますが、赤いテープを木々に目印として巻いてくれば良かったと、帰宅してから思いました。

1)吉田松陰先生　萩では吉田松陰ではなく先生をつけている

2)貞永信義(1923～2003)　山口県出身の長距離走選手、カネボウ陸上競技部所属

3)令和 5 年(2023)9 月 9 日付、読売新聞「伊藤野枝没後 100 年、女性の自立姿勢貫く」を参考

フ ロ ム 鉄 道 の 旅

関西支部　S48年　経済学部卒　上田　功

今から３０年以上前の１９９２（平成４）年8月、英国ロンドン駐在中の夏休みに7泊8日の旅程で北欧ノルウェーを家族4名で訪ねた。筆者はベルゲンやオスロの船会社各社との商談で同地は度々訪問していたが、家内、娘、息子には初めてのノルウェーであった。

8月3日（月）ヒースロー空港１０：５０発　SK５１６便、ベルゲン空港１４：３５着

到着国のフラッグキャリアで旅するのが、何かと便利で都合が良いのは昔も今も変わらないだろう。

予約していた市内のペンションにチェックイン後、未だ陽の高いこの日の午後と翌日を充てて、世界遺産のブリッゲン地区のカラフルな木造倉庫群、フロイエン山登山電車、郊外のグリークの生家など、ベルゲンの街をゆっくりと散策し堪能した。

5日（水）ベルゲン１０：３０発　ベルゲン急行　ミルダール１２：３３着（海抜８６５m）

筆者にとっても初めてのノルウェー国鉄列車での約２時間の旅。山間のミルダール駅から徒歩圏内のバトナハルセンマウンテンホテルへ。周りに人工物は何も見当たらない静かな湖畔に建てられた簡素で清潔感に満ちた造りの一軒宿であったと記憶しているが、今はどうなっているのだろう？

6日（木）いよいよフロム鉄道の旅だ。ミルダール０９：３０発の電車にワクワク気分で乗車。海抜0mのフロム駅まで２０．２Kmを筆者の記録では約４５分かけてゆっくり下った。北の国の爽快な風景を窓外に充分に満喫できていたように思う。六甲山よりやや低く、東鳳翩山よりやや高い地点から海抜0mへ一気に下るのだから、その山岳鉄道の迫力を推し量ってみて貰いたい。

フロムの町へ至り、ソグネフイヨルドを周遊する観光船に乗船。夕方のフロム１８：２０発の上りのフロム鉄道でミルダールへ戻り、ホテルで夕食後、外が未だ明るい内に翌日に備えて早目に眠りに就いた。

7日（金）この日のことがなければ、筆者が本稿を本誌に寄稿することはなかったに違いない。

フロム鉄道沿いに歩道が延々と整備されていることは、ロンドンで事前に調べが付いていて、当日の天候が良ければ沿線の歩道を歩いて下ってみよう、と家族にオファしていた。鉄道路線はループしたりしての２０Kmだから、歩道はそれより多少は短いであろうとは言え、２０Km近い道のりであることは間違いない。家族皆が下り切ることが出来るか！不安な思いが多少はあったが、歩道が途中数か所で駅と近接しているので、無理ならそれらのどこかの駅からミルダールへ戻ればよい、と言わばリスク管理は出来ていた。

朝食をしっかり摂り、ホテルに用意して貰ったピクニックランチを持って、午前9時頃いざ出発。全く他の人と会わない遊歩道を下って行った。途中愚図愚図言い始めた息子を騙し励ましだったかもしれない。休みは適切に入れて、正味約6時間歩いて、フロムの町へ到着。前日と同じ上りのフロム鉄道最終便でミルダールへ戻り、心地よい疲労感を抱いて湖畔のホテルでの慣れた3泊目の夜を過ごした。ＺＺＺ・・・。

遊歩道の途中に牧場内を横切る箇所があり、放牧されていた十数頭の山羊が親しげにすり寄ってきて、餌をせがまれた家族が笑顔で山羊君たちの相手になっていたこと、フロムの町近くになって谷間の小さな教会の風情が周囲の風景と見事にマッチしていたこと等、今でもこの歩きのことは思い出すことが出来る。

YUWV の皆さん、いつの日かノルウェーに旅してフロム鉄道に乗車することがあったなら、その時には皆さんの仲間の物好きなワンダラーとその家族が、かつて二日間に渡ってフロム鉄道を楽しんだこと、特に沿線を完歩したということに思いを馳せて車窓を楽しんで下さい。日本からの旅では、筆者達のような「贅沢な日程」を組むことはなかなかむずかしく、旅鳥がこの地に標した唯一度の足跡に当たるのではないかと思えるからです。

８日（土）ミルダール 12：33 発　ベルゲン急行　ヘネフォス経由　１８：１０オスロ着

最高点が標高１２３７mの荒涼たる山岳地帯を力強く快走する約6時間のこちらの鉄道の旅も実はお薦めです。オスロでは、ダウンタウンのサガホテルへ連泊。

９日（日）オスロ市内散策。王宮やムンク美術館、他。

１０日（月）１５時頃までオスロ市内散策。知人のオフィス訪問、他。

オスロ空港　１７：００発　SK５１３便　ヒースロー空港１８：１０着

ヒースロー空港からブラックキャブで、サリー州チーム（ウインブルドンの近く）の自宅へ無事安着。

房総半島の不思議なトンネル

東京支部　S50 年　経済学部卒　塩塚　保

　令和５年１１月８日、房総半島の養老渓谷（千葉県夷隅郡大多喜町）を訪れた。
目的地は不思議な共栄・向山トンネルだ。
秋空は晴れ渡っている。養老渓谷は美しい紅葉で有名だが、モミジの葉はまだ、赤く染まっていなかった。
県道から右に曲がる。ゆるやか坂をゆっくり上る。トンネルが見えてきた。
トンネルの奥へと進む。歩道専用のトンネルかと思って、真ん中を歩いていると、
後ろから乗用車が走ってきた。急ぎ、道路わきに移動する。
しばらく歩くと、上下二つのトンネル出口が見えてくる。２重構造のトンネルだ。
カメラを構え、撮影した。映像をみると、トンネルが緑色に染まっているではないか。
神秘的な異空間だ。
　このトンネルは戦前に開通した。もとともは普通のトンネルで、上の部分が出口だった。戦争中はトンネル内部に横穴を掘り、防空壕として使われたという。
　昭和 40 年代、接続する道路との利便性を高めるために、トンネルの途中から深く掘削して下の出口が新たに完成した。このとき、上の出口を埋め戻さなかったため、上下二つの出口ができたそうだ。
　しかも、名称は西側が共栄トンネルで、東側は向山トンネルと呼ばれている。
１本のトンネルに二つの名前がついた珍しいトンネルだ。
　トンネルを抜けると、そこは養老渓谷だった。
　橋の上に立つ。川面をのぞく。大きな、黒いコイが悠然と泳いでいた。

不思議な共栄・向山トンネル

秋の笠森観音

　◇笠森観音

この日、笠森観音（千葉県長生郡長南町）も訪れた。
山寺だ。深い森の中、参道が続く。険しい石段を一歩、一歩、踏みしめながら、登っていく。
けっこう、きつい。
山門をくぐる。一気に視界が広がる。巨大な岩の上に観音堂がそびえたつ。柱と階段を組み合わせた独特の構造だ。江戸時代の浮世絵にも、描かれている。
靴を脱ぐ。急な階段を昇る。回廊に達した。見事な情景が広がっていた。
青い空。房総半島の山、山、山が連なる。
ああ、気分が晴れ晴れとする。

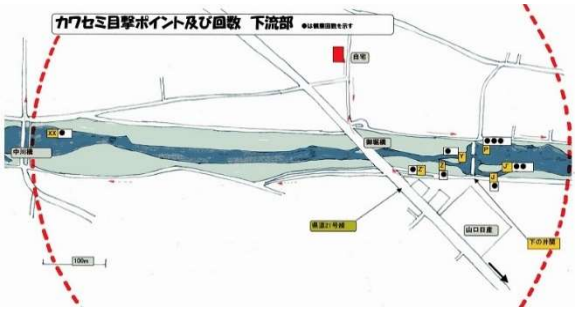
「仁保川のカワセミ」　　山口支部　S52 年　経済学部卒　　古谷眞之助

「カワセミ」をご存知だろうか。名前からは「セミ」の一種と思われるかも知れないが、たぶん、あなたのお住まいの近くの川にも生息しているに違いない、れっきとした鳥の名前である。私が自宅近くの山口市大内地区を流れる仁保川でカワセミに初めて出会ったのは、今から 10 年以上前の2012 年１０月末のことだった。その日のことは今でもはっきり記憶している。普通の鳥とは思えず、多分どこかで飼われていた愛玩用の鳥が逃げ出してきたのだと思ったほどだった。鳥に詳しい友人に訪ねてカワセミのことを知り、一気に魅せられてしまった。何と言っても背中のコバルトブルーが、身近に見られる野鳥の中では抜きん出て鮮やかであるし、餌取りの水中ジャンプも豪快で、しかも、その姿が実に愛くるしいからである。そんなカワセミが、奥深い谷間にひっそりと生息しているのではなく、何の変哲もない、自宅近くのごく普通の河川で活発に活動していること自体が驚きでもあった。それ以来、朝のウォーキングの際にはいつも望遠つきのカメラを持参し、出くわせば迷わずシャッターを切るようになった。

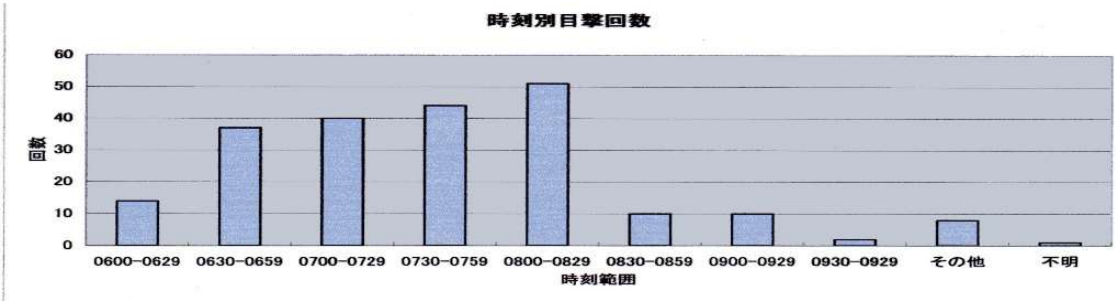
椎間板ヘルニア手術や足の捻挫というハプニングで観察は中断を余儀なくされたが、その日から約 1 年間、可能な限り観察を続け、目撃した際には、その時の状況を記録した。観察対象範囲は、ウォーキングコース内の下市橋～御堀橋～氷上橋までの川沿い約 2km の間である。素人の観察記録だが、217 回の目撃データを分析して分かったのは、以下のようなことだった。もちろん、素人なので誤りがあるかも知れない。

・生息数　　２羽。オスとメス（ オスはクチバシの下部が黒、メスはオレンジ色で簡単に識別できる ）
川の上流、氷上橋付近に生息するメスのカワセミを「ヒカミちゃん」、川の下流部、御堀橋付近に生息するオスのカワセミを「ミホリ君」と名付けた。ただし、カワセミの寿命は３年程度と考えられており、ヒカミちゃんもミホリ君も孫に時代に入っていると思われる。

・行動半径　　観察地点を地図上に落とし込むと、約半径 500m であることが分かった。



・行動時間　　観察はウォーキング時のみだから、午後は含まれていないので、ややいい加減な結論になるが、朝6時から9時半までの 30 分ごとの間では、8時から8時半までに最も多く観察している。また6時半から8時半までは平均的に遭遇率が高くなっている。



・繁殖活動　４月から５月にかけて雌雄が同時に行動しているのを目撃。営巣場所は川沿いの土壁に穴を掘って行うとのことだが、対象エリアにはそのような場所がないため、エリア外で営巣したものと推測。

・捕食活動　カワセミのエサは大部分が小魚である。そして小魚を捉える時には、空中でホバリングして狙いを定めるか、小枝に止まって狙いを定め、水中に飛び込み捕まえる。217 回の目撃情報の内、この豪快なジャンプを確認できたのは 20 回だけである。そしてその大部分で捕獲に成功している。

ざっとこんなようなものである。付記しておくと、カワセミが捕食時に使用する適当な止まり木が川沿いにはあまりないので、これはと思える場所９ヶ所に設置した。うち４か所は気に入ってくれたらしく、そこでカワセミをよく見かけていた。しかし残念なことに、その２年後に大雨があって、全て流失してしまった。また、エリア内の井関が倒壊するハプニングがあって、３年にわたって河川改修が徹底的に行われたため、樹木も伐採され、土砂も除去されるなどして、河川環境は、カワセミにとっては悪い方に変わってしまった。ただ、一時見かけなくなっていたカワセミも、工事が終了して落ち着いてくると、再び見かけるようになって、一安心しているところである。

ともかく、最初の観察以来、記録は 1 年間のみだが、撮影だけは続けていて、「これは」と思える写真、「まずまず」と思える写真、合計 874 枚をパソコンの中に保管している。その中から何枚かを掲載してみよう。今後も、ウォーキングを続けられる限り、カメラを抱えて撮影を続けていくつもりである。朝、澄んだ大気の中を、ピーッという甲高い鳴き声を上げて、水面上１ｍ以下で駆け抜けていくカワセミに出会うと、何だかほっとしてしまって、今日は何か良いことがある気がするから不思議である。

カラーでお見せ出来ないのが残念。関心ある人は、是非、近くの川で注意深く観察を続けてみて欲しい。意外に簡単に出会えるはずだ。椹野川はもとより、一の坂川でも目撃しているくらいなのだから・・・。

思いつくままに・・・

九州支部　S53 年 文理学部卒　山本玉枝

何とか山に関する話題を・・・と考えてみたものの、お話しするほどのこともないので、思いつくままに今の生活をお伝えしていこうと思います。

38 年間の現役生活をリタイアした後、請われるままに新しく仕事につき、現在も週 3～4 日勤めつつ、現役の時から続けている組合活動を今も継続しており、案外忙しい毎日を送っています。そうは言いながらも、現役時代と比べれば、雲泥の差で、時間にゆとりがあるので、せっせと遊ぶようにしているところです。

ここ数年にわたった新型コロナウイルスの感染拡大によって、大きくその動きを制限されたことが残念でなりませんが、今年５月から動きやすくなったので、早速計画し実行に移しました。まずはネパールに行こうといろいろ調べたところ、コロナに関する陰性証明書の提出が厳しいため、後日に伸ばすことに。さて、ではどこに行こうかと計画を練り直し、結果 7 月にモンゴルに行き、ウランバートルを中心に 6 日間ほど過ごしてきました。ウランバートルは人が多く集まっていますが、少し離れた地まで足を延ばすと、草原が続き、のんびりとうろうろしながら楽しむことができました。10 月には、ウズベキスタンに。タシケントに入った後、列車を使ってサマルカンド、ブハラと回り、たくさんの、見事すぎて言葉にならないくらいの素晴らしさのモスクやマドラサを見学しサマルカンドブルーを十分堪能してきました。また、地域ごとにあるバザールは活気に満ちており、何を買い求めるということではなくても楽しむことができた上、食事もおいしく、また再訪したい地になりました。12 月にはラオスに行く予定を立てているので、楽しんできたいと思っています。

サマルカンド・マドラサ

同じ場所でのプロジェクションマッピング

旅行の計画も以前は業者頼りでしたが、ここ１０年程は、ネットで検索して便やホテルを予約し、さらに必要に応じて列車の予約を行い、ある程度独力で計画ができるようになったので、自由に動き回れるようになりました。そのうえで、今までの旅行と違ったところが数点あり、その一つが携帯に係わることです。以前は、Wi-Fi を予約して持参してましたが、遅ればせながら、今年からは、シムカードを現地で購入しそれで環境を整えたところ、とても安価だし使いやすく良かったです。また、クレジットでのキャッシングを現地でできるようにしていったところ、これもとても便利で良かったことの一つです。今回は現地でのタクシーアプリがうまく機能できなかったので、今後の課題として改善していくともっと使い勝手がよくなると思っています。そんなことの前に大前提として大きな大きな課題である英語を習得しないことには、、、今は英語というより、ボディラングウエッジが主で無理やり伝えている有様なので、何とかしたいという思いはあるのですが、、、なかなか難しい。勉強するということがまず苦手な人間で、重ねて根気のない私は。課題が大きい！

ま、何はともあれ、元気でなければ遊ぶ気も起きないので、今後とも元気に過ごせるよう健康管理をしつつ、適度な仕事に取り組みながら毎日を楽しく過ごしたいと思っています。

もちろん、OB 会や同期会での再会、そして九州支部での活動と、どれも大切な楽しみの一つなので、これらの活動も生活の一部に取り込みながら。

ススキの秋吉台散策

山口支部　S47 年　文理学部卒　野村（内田）英昭

毎月一回くらい二人で秋吉台を歩いていた平穏な時期がなつかしい。妻の自宅介護を始めた 10 月も下旬、泊まりこみで応援に来てくれた妹が気分転換をすすめるので、久しぶりの一人での秋吉台散策。

いつも歩く、長者が森―烏帽子岳―地獄台周回コースでなく、展望台から剣山経由、長者が森の周回コースを選びました。観光客で賑やかな展望台の正面に、「市民の力で“秋吉台”は守られた」という看板があり、秋吉台が米軍射爆場化の危機を乗り越えた歴史を伝えています。

ここから、「日本山脈縦走西日本起点　読売新聞社」の碑がある若竹山にむかうと、すぐに観光客の喧噪は消え、秋の虫の鳴き声が聞こえてきます。若竹山から剣山にむかってはわずかな登りで山頂。どうしてこれが「剣山」？という疑問さえわく、なだらかな山頂には正面に「平和と観光の碑」と刻まれた立派な記念碑があり、横面には「国定公園秋吉台空爆演習場反対記念」と彫られ、当時の小沢県知事の名前などが並んでいます。もう一つの面には「期成同盟」として、会長など反対運動をリードした方々の名前が連ねられ、副会長で美東町長の志賀実人氏の名前もあります。志賀氏は戦後山口県内で 2 人生まれた共産党員首長（もう一人は室津村長）として知られています。党派を超えた先人たちの、秋吉台の学術的価値への深い認識と郷土愛とがこの秋吉台を守ったことがよくわかります。

ここから、長者が森への道は、舗装されてはいませんが広い道です。見渡す限りのススキの草原の中、かなり侵食しているセイタカアワダチソウ。道の両側にはリンドウ、サイヨウシャジン、アキノキリンソウなどが目立ち、けなげにナデシコも残っていました。陽ざしが暑い中、長者が森の中はひんやりとしてうす暗く別世界です。長者が森から帰りのルートで選んだ道は、草原の中の、芝生が敷き詰められたような快適な道。これこそ秋吉台の散歩道と歓声をあげたくなるような道が展望台まで続いていました。「ここは歩いていなかったね」と妻に話しかけながらの一人散歩でした。

秋吉台は大学一年の時の初めての「県内合ワン」（県内の大学短大ワンゲルが合同でキャンプ）の場所。長者が森近くのキャンプ地から、帰り水まで水汲みに行ったのはきつかった。宇部短大の二年生の女性リーダーのカッコよさに目を見張る思いをしたのも忘れません。県内合ワンって今もやってるのかな?

山大ワンゲル OB 会では、　年の秋吉台での総会。その時登った龍護峰は、当時の会長だった同期の山本充二君との最後の山歩きになりました。この会には同期の南渕さんも参加していて、お互いのがん闘病を話しあったのも懐かしい思い出です。その次の会長を務めた池富士清君も・・・。あちらにも山があり、仲間とおしゃべりしながら登っているといいな。

ススキの秋につづいて雪景色の冬、草原を焼き尽くす初春の山焼き、そのあとの真っ黒い草原の中に石灰岩が林立する異景、若草色におおわれていく春はどこにでも歩け、蕨やゼンマイが伸びてきます。四季折々、いつでも自由に楽しめる秋吉台、地元の方々やボランティアによって毎年行われる山焼きがこの景観を守ってきました。先人たちへの感謝の思いとともに歩く秋吉台です。

【秋吉台掲示板】

【秋吉台剣山】

【秋吉台若竹山】

旅客機離陸の撮影スポット

九州支部　S45 年　経済学部卒　武富(伊藤)敏夫

令和５年(2023)９月７日付の読売新聞で、マニラから福岡空港に向かっていたフィリピンの格安航空会社「セブ・パシフィック航空」の旅客機が４日、同空港の「門限」までに到着できず、翌５日未明に乗客を乗せたままマニラに引き返し、乗客 125 人が約 11 時間にわたって機内に缶詰め状態となったと報じられました。

私も海外出張の折、航空システムに不具合が生じ、手作業に切り替えた影響のため、機内に約４時間待たされた経験があり、長時間の缶詰め状態は大変だったのではないかと思いました。

福岡空港では旅客機が 3～5 分間隔で離着陸しているそうです。そのため、「福岡空港の上空で着陸する旅客機が集中すると、着陸する順番を決め一列に並べて待機させる。」と、航空管制に携わった方から聞いたことがあります。福岡に帰省の際、搭乗機が突然福岡の上空から壱岐の方へ向かったことがあり、何故だろうと疑問に思ったことがあります。今回の事例も福岡の上空で着陸順番待ちの待機飛行で燃料が不足する事態になったようです。

福岡では、体験活動協会 FEA が「福岡低山山歩き教室」を開催しています。第 17 回は 2023 年 9 月 19 日～2024 年 5 月 30 日までの日程でおこなわれ、コースとして、初心者の低山歩き基礎コース６日程、福岡低山歩きシリーズ 44 コース 108 日程、みんなで探訪レッツハイク１コースがあります。

昨今の体力を考えると低山歩きも良いのではないかと考えるようになりました。図書館にそのパンフレットが置いてあり、低山歩きコースを見ると、これまで行ったことのない低山とコースが数多くあり、今回は、その中で昨年 10 月に訪れた井野山(233m)を紹介しましょう。

井野山は福岡県糟屋郡宇美町にあります。宇美町は、厳冬期に凍結する英彦山の四王寺の滝とともに有名な難所ガ滝の登山口でもあり、機会があれば難所ガ滝に訪れてみてはいかがでしょうか。

井野山の登山口、井野公園駐車場には既に数台の車が駐車してあり、やっとスペースを見つけて駐車し登山開始です。登山と言っても山頂付近までは舗装された広い林道を歩き、山道はほとんどなく約 30 分で山頂へ到着です。山頂は 360 度の眺望が開け、北西には福岡市街と福岡空港が眼下に見渡せます。眼下の滑走路から旅客機が飛び立ち、機体は福岡の町並みを背景にぐんぐん上昇していきます。この山が福岡空港から離陸する旅客機の撮影スポットであると初めて知りました。山頂では三脚で固定したカメラで撮影している人もいます。下山は鉄塔分岐から赤井出バス停を経て井野公園駐車場と向かいます。

後方は福岡市街

車を宇美公園駐車場へ移動し、宇美八幡宮から光正寺古墳まで、旧国鉄勝田線が通っていた緑道を通って往復のウォーキングをしました。最近では登山の時間は午前中で、あらかじめ決めた場所でお昼の食事をするというトレッキングをしています。

「福岡低山山歩き教室」のパンフレットに掲載されている低山で、まだ登っていないところへ行けたら良いと思っています。

(参考)

・体験活動協会 FEA の第 16 回・第 17 回「福岡低山山歩き教室」のパンフレット
・令和５年(2023)２月 22 日付、西日本新聞「福岡空港井野山から望む」

嘘は大きなもの程バレない

関西支部　S55 年　経済学部卒　山本剛士

今春２類から５類に分類変更になり、一連の騒動は収束したかのように見えた。しかし政府は依然として注射を打たせようとしている。ブースター接種したイスラエル等も、注射の効果が上がらず消極的であるにも拘わらずである。又政府は製薬会社と秘密契約を結び、その内容は国会質問でも明かされず国政調査権は果たされていない。何故か？

注射の副反応については https://www.youtube.com/watch?v=3bRmn877B1w

医療業界の闇は深い！本年同期をガンで喪った。2 人に 1 人癌で亡くなる時代と言われるが、欧米諸国は 1990 年をピークに減少している。何故か？

古い本であるが以下に要約したので、是非実際の本を手に取ってもらいたいと思う。

「ガンは治る ガンは治せる」著者：安保徹・奇埈成・船瀬俊介　初版 2007. 3.10

ガンの原因(P14・15)

ものすごいモーレツな生き方をする人や、いつも怒ってばかりいる人、いつも悩みを抱いて、苦悩したり、心の抑圧がある人は、交感神経の緊張をもたらします。

顆粒球が増え、血流障害と共に粘膜・上皮・分泌腺を破壊。上皮ガン・腺ガンとなり現れる。

ガンを治す 4 か条(P21~27)

① 生活パターンを見直す
　頑張りすぎ・頑固を直す

② ガンの恐怖から逃れる
　自律神経レベルを交感神経から副交感神経優位にする。感謝する。

③ 辛くて消耗するような治療は受けない
　体に悪い事をやって病気が治る？放射線治療・抗ガン剤

④ 交感神経緊張から副交感神経優位にしてリンパ球を増やす。
　体を温める事によってガンを自然退縮に持ち込む。温熱・笑い・食事・体操

早期発見・早期治療？(P80)

健康人でも毎日 3000～5000 個のガン細胞が体内に生まれる。

診断学の力が付くと「全員にガンを見つける事が出来る」と言う医師もいる。

現在の治療法(P119・P141~143)

ガンの三大療法は①抗がん剤 ②放射線 ③手術？

厚労省の抗がん剤担当専門技官への船瀬氏の取材に対し「抗ガン剤がガンを治せないのは周知の事実です」と答えた。また厚労省保険局の医療課長は公の席で、「皆さんは、ご存じないでしょうが、抗ガン剤はいくら使っても効かないんです」「効かない薬なんですから、保険に適用するのはおかしい」と主張。

抗ガン剤とは(P144~146)

薬剤に添付が義務づけられている「医薬品添付文書」。ファイザー社「プラトシン」の重大副作用を見ると、ショック死・心臓停止・心筋梗塞等何十症状記載。有効性データは一切記

述無し。
アメリカ政府対応(P150~154)
　1985 年、米国立ガン研究所(NCI)デビュタ所長がアメリカ下院議会で「抗ガン剤による化学療法は無力だ」と証言。
　1988 年、NCI は「抗ガン剤は、強い発ガン物質であり、投与すると、他の臓器に新たなガンをつくってしまう」とのリポートを発表。
　1990 年、アメリカ政府はこれまで推奨してきた「ガンの三大療法が無効であった」と断定する衝撃リポートを発表。それが OTA リポートです。さらに「通常療法で治らないとされた末期ガン患者が、非通常療法(代替療法)で、たくさん治っている。議会はこれらの療法を詳しく調べ国民に知らせる義務がある」と発表。1990 年は世界医療の歴史碑的な年となった。
海外のガン治療(P162~)
　全く治療しないが基本。何もしない方が延命効果が高い。271 人の医師に貴方や家族がガンになった時、抗ガン剤治療を希望しますかと質問したところ、270 名は絶対拒否すると回答した。上記のような事実がある事を知った上で、自分や家族の健康をお守り頂きたい。

秋山邦雄先輩を偲んで

九州支部　S５６年 経済学部卒　　権藤　雅明

　昨年 12 月に急逝された秋山先輩を偲んで、九州支部報に続いてのメッセージとなります。
　大学卒業以来、ずっと首都圏で仕事をしていた私が会社異動で 2004 年秋に福岡勤務となってまもなく、今度、経済学部時代の恩師である鈴木ゼミの鈴木重靖先生の傘寿のお祝いパーティーをやるので手伝うようにとの連絡をいただいたのが最初の出会いでした。
　「せっかく、福岡に戻ってきたのだから、ワンゲルと鈴木ゼミの OB 会活動に協力してくださいね。」と例によって、優しいながら、有無を言わせぬ口調で要請されました。
　以来、ワンゲルと鈴木ゼミの W 先輩として、OB 会活動を通じて公私ともにたくさんのご指導をいただき、大変お世話になりました。特に、会社で要職を歴任されながら、ワンゲルや鈴木ゼミのメンバーのことに常に気を配られていた姿に間近で接して、尊敬すべき大先輩でありました。秋山先輩の在りし日の姿を偲び、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

＜2015 年 11 月　鈴木重靖先生と秋山先輩との写真＞

7．近況報告

後期高齢者になったよ

九州支部　S46 年　文理学部卒　中村幸子

　２０２２年に私に起った トホホ な でき事を聞いて下さい。
１年間に２回も骨折したのです。
それも手首と足首です。何てことでしょう。
本当にハプニングの１年でした。

　最初は６月に九重へ森の貴婦人の名を持つオオヤマレンゲを見に行った時です。花の美しさに感激して猟師岳に登りました。ここまでは順調で楽しい山行でした。
　翌日、帰りに宝八幡宮の紫陽花が見頃というのを知り、立ち寄ってみることにしました。神社の横に登山道をみつけ宝山に登ってみることにしました。急坂の連続でついに頂上は断念しました。下りは注意しながら歩いていたのですが、アッという間にスベッて左手を地面についていました。「痛い！！」ここが悪夢の第一です。左手首の骨折でした。

　治療とリハビリが続き、もう治った 丁度その頃、第２のハプニングが起きたのです。
今度は秋の紅葉が美しい季節１０月３１日、長崎県の島原で夫の両親の法事をしました。その帰り、雲仙の妙見岳へ登ることにしました。６月に骨折しているので、下りはロープウェイを利用すれば安心だと登りました。ところが快調に歩いていたので　下りもロープウェイは乗らず歩こう　ということになりました。これが第２の悪夢の始まりでした。小石のガレ場でアッという間にスベッてしまい、今度は左足首を骨折してしまいました。

　「松葉杖を使って歩く練習をして下さい」と言われ、やったのですが、できません。即入院となってしまいました。
　初入院なので、何だか“ワクワク ドキドキ”です。
昼間は治療とリハビリに励み、長～い夜はＮＨＫの「ラジオ深夜便」をイヤホンで聞きつつ寝ている毎日でした。完全に治るまで５３日間かかりました。
「長かったなぁ～！！」というのが実感です。

　あれから約１年、今のところ元気に過ごしています。
皆様、下山にはくれぐれも注意して楽しい山行きをして下さい。
その時のオオヤマレンゲと雲仙の紅葉の写真を同封します。

第19回富士登山顛末記

東京支部　S47年　文理学部卒　惠谷　浩
eya-rcrc@waltz.ocn.ne.jp　047-469-5723

【富士山本宮浅間大社】

今年80歳になった筆者にとっては、19回目となる富士山登山に当たり、初めて娘と4歳になった孫娘を連れて登った。

2023年8月29日（火）、千葉県船橋市の自宅8:30発、電車を乗り継いで、新幹線こだま717号品川10:34発、新富士駅11:34着。駅舎内でむすび・サンドイッチなどを買って昼食。富士宮口五合目行の富士急バス12:20発に乗車。途中、トイレ休息として、全国浅間神社総本宮富士山本宮浅間大社に寄った。

14:40 富士宮口五合目2,380着。登山開始し、ほどなく眼下にたなびく雲が見え、駿河湾と伊豆半島、三保の松原を望む。孫は「雲の上を歩きたいな」と言う。また、雲の合間に愛鷹連峰が見下ろせた。15:18、6合 目2,490mに着。

【雲の向こうに駿河湾と伊豆半島を望む】

【ザックを胸に、孫をおんぶして上る娘】

これまでと違って、溶岩石がごろごろし、富士山登山道らしい道となった。小平池（山小屋跡）に着いたころには、孫が疲れたと言って娘におんぶされたり、歩いたりしている。娘は自分のリュックサックを胸にして孫をおんぶ。娘に筆者が「ここでバテたらどうもしてやれない」と言うと、「大丈夫」とのこと。娘は意外と豪のもの、見直さねば。娘は、筆者が通常よりも2kg重い9kgのリュックを背負い、息を切らせハーハーと言っているのを聞いて、「お父さん大丈夫」と言う。「大丈夫、低山でも上りだとハーハーと言っている」。娘が「80だから」と言う。それでも、夕焼けで遠くの空がほんのり染まり始めて、計画よりも20分遅れているだけの17:30、夕・朝食付宿泊予約している新七合目2,790m・御来光山荘に無事到達した。

【雲海と夕陽、満月】

宿泊手続きをして、食事・トイレ・寝床などの説明を受けた。寝床は3名個室で寝袋である。娘と孫はサバ弁当、筆者はカレーで夕食。しかし、孫は大食漢なのに疲れたと言って少ししか食べず、残りを筆者が食べた。また、食後すぐに寝るには早く、雲海と夕焼けや満月、それに燈り始めた下界の街灯などを眺めた。

寝袋に入り心地良く寝ている真夜中に、娘がレジ袋を持って慌てている。孫が嘔吐。筆者が「あー、高山病。典型的な症状である」。娘は「登るのを止めて下山する。お父さんは予定通り登ればよい」。「いや、一緒に下山する」。

8月30日（水）、夜中にトイレに行ったとき、外に出て空を見上げると、期待外れであまり星が見えない。天の川をと思ったが、そのようなものは見えず。天候が悪いのか。それとも、筆者の目が悪くなったためか。

娘を御来光に誘ったが止めるとのこと。富士山傾斜面からの御来光を仰ぐ。富士山の御来光は何度見ても神神しいものである。また、モルゲンロート（朝日の出る前に山肌が太陽の光を受けて赤く輝く現象）を見ることも出来た。太陽が少し昇ったとき、孫が朝日を見ると言ったそうで、娘が孫を抱っこして出てきた。

朝食には、前日の夕食のときにもらった山小屋の弁当を食べた。【新七合目 2,790m・御来光山荘から御来光を迎えた】
卵焼きにウインナー、たくあんなどで、孫の好物のウインナーをやった。しかし、やはり孫はあまり食欲がない。

出発しようとする小さな男の子とその父親らしい人に聴くと、男の子は 5 歳で今日のうちに山頂まで登り、そのまま下山すると言う。筆者は今日のうちに下山は無理だと思ったが、どこの山小屋でも寝床は一杯でも食事をする場所が広くあり、転がり込めば安全上から入れてくれるので大丈夫と思って、無理とは言わなかった。

【御来光記念写真】

今回、計画中の最初それ程乗り気でなかったような娘が資料を提供しているうちに、しっかりやる気満々となったなと思っていた。今朝、娘が孫にもっと登ろうと言ったようで、孫が登ると言っているという。「じゃー登ろう、だめなら途中で引き返せばよい」。孫も元気そう。ところが、5～6 分位上ったと思ったら孫は疲れたと言う。即、下山を決断。

御来光山荘に引き返しそのまま、8:58 出発。富士宮口五合目から新富士駅へのバスはこの時季、10:00 と 15:00 発の 2 本しかなくて、10:00 は全く不可能で、ゆっくり下山することにした。ところが、孫は元気そのものでどんどん歩く。本当に高山病だったのだろうか。通常、下山する（空気中の酸素濃度が高まる）につれて元気を取り戻すのに。娘はしっかり孫について進むが、筆者は遅れて「時間があるのでもっとゆっくり歩いてくれー」と叫ぶ。12:30 頃、六合目 2,490m に着。

【駿河湾と伊豆半島を見下ろす】

【駿河湾と三保の松原を見下ろす】

六合目の山小屋・宝永山荘に入り昼食。筆者は宿泊の夕・朝食を除き、山小屋の販売メニューで食べるのは初めての経験。孫と娘は冷しうどん。筆者はぜんざいを頼み、予備食のパンをと思った。娘は「この厚いのにぜんざい」と笑う。「疲れたときには甘いものが美味しい」。だが、やはり孫は食が進まず残す。筆者がパンを止めて、残したうどんを食べた。15:00 にはまだ時間があり、ゆっくり歩く。ところが途中、孫は下山道から横の山側に上って行く。筆者が冷や冷やしながら「止めろ、そこから下りるところがない」と叫んでも止めず。娘は笑って見ているだけ。孫は下りることが出来ず。娘も孫が上がったところを迎えに上って行けず。娘が孫に滑って下りろと言う。孫は心得たもので、以前公園でコンクリートの坂をズボン姿で滑ったときの調子で、滑り下りた。

14:20、富士宮口五合目に着。すぐにバス停に行くとリュックがズラーと並べられ、建物の日陰に多くの人が座っている。乗車券売り場の人にバスの座席の数を聞くと、30 とのこと。リュックの数を数えると丁度 30。ぎょ、丁度座れない。2 時間近くも立たねばならない。孫が再度数えると、やはり 30。筆者は仮設の待合室に行き、缶ビールをたのむと売っていない。これまで 2 回、カップヌードルに缶ビールで富士登山を 1 人祝したことがあるのに。あのときのビールの味は忘れえず。

他の乗客もぼやきながら待っていると、バス会社の人 2 人が様子を見ながら話していたが、増便バスが来るとのこと。座って、定刻の 15:00、五合目を出発。

バスは 16:47 に新富士駅に着。筆者は待望の缶ビール 350mℓを購入。17:10 発こだま 734 号に乗車し、筆者は予備食のパンをつまみにしてビールで乾杯。

以上、富士登山はかくして終了した。娘によると、孫は日本一高い富士山に登ろうと言うと「期待と不安」と言っていたそうである。そう、4 歳にしてすっかり成長したもの言いである。来年は山小屋 3 泊で目指したい。筆者の方がそうしないと無理のようである。今後も毎日の健康運動を続けて、もう少し富士登山をしたいものである。

東鳳翩山「還暦登山」

九州支部　Ｓ６２年　理学部卒　富田和郎

この原稿を書いている期間中に還暦を迎えています。今年６０歳になるにあたって、「山登りを再開する」を目標としていました。山には長くご無沙汰しているので山登り再開には不安がありましたが、４月に近場の山に登ってみたところ、気持ち良くて一気にワンゲル熱が目覚めました。それから、山道具を揃えて、頻繁に近場の山を登り、９月には九州支部の山行にも初めて参加して背振山系の井原山、雷山に登りました。少しずつ行動範囲も広がり、先月は六甲山＋有馬温泉に行って来ました。

そして、先日東鳳翩山に行って来ました。卒業以来で３６年ぶりになります。コースは二ツ堂からピストンです。一番馴染み深く、たくさんの思い出があるコースです。取り付きの階段も懐かしく、この前の道にみんなで集まってよく写真を撮りました。ジグザグ道の急登も昔と変わっていません。登っている最中は、雨の中を歩いた錬成や雪道を歩いた忘ワンのことが思い出されます。キスリングに砂袋や一升瓶を背負って踏みしめた道です。コース中程で少し勾配が緩くなった道になります。普通の杉林の中の道ですが、何故かこの道の印象は強く残っており、気持ちよくて一番好きな道です。今回も変わらず気持ちよく歩かせてもらいました。落ち葉を踏みしめながら「ここで一本取ったなぁ」など思い出しながら、やがて板堂への分岐がある広いところに着きました。ベンチも置かれ、きれいに整備されていました。ここからピークまで階段が続きます。階段ができるとの話は現役時代に聞いた記憶がありますが、実際歩くのは初めてです。「錬成では辛いだろうなぁ」と当時には無くて良かったと思います。ピーク直下には中国自然歩道経路図の案内板がありますが、これも昔は無かったと思います。ここからはピーク標が見えて、とても良い撮影スポットです。

ピークは懐かしいです。ピーク標があって、ベンチがあって、岩が露出していて、多少変わったかも知れませんが、昔の感じと変わりなく、言葉に表現できない程の懐かしさです。眺望も懐かしいです。小郡方面の太陽の光の筋の向こうにぼんやり海が見える光景も懐かしく思います。

西の肩でテントを張っていたところに下りてみました。ここはベンチも設置されて、木が伸びて昔の面影が無くなっていました。ちょうど現役の頃の写真が、古谷さんの近況報告「東鳳翩山の今、2022.11.8」（※）に載っています。当時は、ここからピークも良く見えていましたが、今は木で覆われ、ピークへは段差が大きい階段の道になっており、昔の様に酔っぱらって歩ける道ではありません。木で覆われたせいか昔のテン場や歌い踊った場所が狭く感じます。吉敷に下りる道も悪路になっていておススメでないようです。ここから西鳳翩山へは防火帯で広い道でしたが、今はどうなっているだろうかと思います。

もう一度ピークに登り返してピークを堪能して、二ツ堂に下山しました。昔を思い出しながら、懐かしみながら歩いたので、あっという間で山に登った感じがしないくらいでしたが大満足の山行でした。

下山後は市内の思い出の場所を回ってきました。山口訪問もおよそ２０年ぶりだと思います。まず、錬成で歩いた道を車で下って瑠璃光寺五重塔に寄ってみましたが、屋根葺き替え工事中でシートに覆われて見ることができませんでした。山口市内ではここが一番の観光スポットと思っているのでちょっと残念です。

その後、龍蔵寺のボケ封じ観音様にお願いをしてきました。学生時代に「酒でだいぶ脳細胞を破壊したので将来ボケんようにお願いせないかん」と言っていましたが、この歳になって真剣にお願いしてきました。

そして、大学に行ってボックスと各学部を見てきました。日曜日だったので学生もおらず静かでした。ボックスの場所は変わっていましたが、昔と変わらない雑然としたボックス内を見ると元気に現役部員が活躍している感じがして嬉しく思います。ところで「私語記」が見当たりませんでしたが無くなったのでしょうか。SNS で連絡ができる時代ですが、連絡以外の雑記が趣深いので無いのは寂しく思います。各学部の建物は昔のままで、理学部の前ではあまりの懐かしさに鳥肌が立ちました。

大学内を一回りしてから大学通りをぶらぶらして湯田温泉の方に行ってみました。同世代にしか分からない話で恐縮ですが、感想を列記すると、まだ昔のまま残っているアパートがあった（青雲ハイツ、若葉など）。「長門館」などよく食べにいった店が無くなって残念。その代わりチェーン店やファミレスができて食べるところが増えた印象。徳光がコンビニになっていた。ヤマネ薬局は残っていた。丸久はアルクに名前が変わって２４H営業になっているが建物は昔のままの感じ、三叉路の三平酒店もなくなっていた。湯田温泉駅に白い狐の像が立って、足湯があった。湯田温泉駅から温泉宿の間の道は整備されていて、あ～ここか！と思

うほど、広い道になっている･･･など昔と変わったところもありましたが、街並みや雰囲気は昔と変わらず、当時の楽しかったことが次々に思い出されてノスタルジーに浸りました。

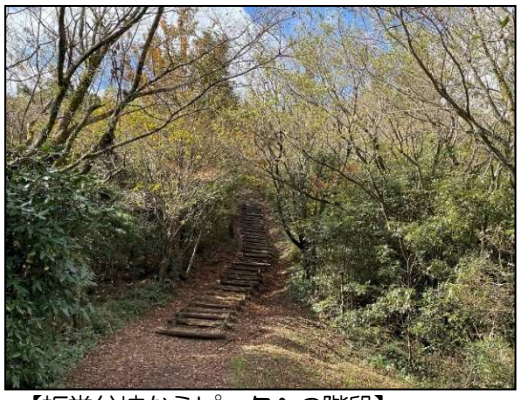
その後は喜良久で温泉に浸かって帰りました。今はホテルに変わって全く違いますが、昔の旅館の時はワンゲルで布団敷や皿洗いのバイトを受け持っていたので、よく行ったところです。

今回は還暦をきっかけに東鳳翩山と山口を訪れましたが、節目の年に当時を回顧し、リフレッシュすることができて、とても満足な一日でした。

以上

※久しぶりに東鳳翩山に登るにあたり、鳳翩会ホームページの会員からの近況報告「東鳳翩山の今、2022.11.8」古谷さんの記事を参考にさせて頂きました。地図、写真付きで詳しく説明されているのでとても助かりました。

【二ツ堂】
よくこの前で写真を撮りました。



【板堂分岐からピークへの階段】
錬成ではエライだろうな。当時なくて良かった。

【ピーク直下】
インスタ映えする撮影スポット。

【ピーク】
ピーク標、ベンチ、岩の露出など懐かしい。

【ピークから小郡方面】
懐かしい眺望です。

【西の肩からピーク】
木が伸びベンチができて昔の面影がなくなりました。

東京高尾山南東の草戸山登山

東京支部　S４７年　文理学部卒　惠谷　浩
eya-rcrc@waltz.ocn.ne.jp　047-469-5723

４歳の孫娘と娘、筆者、それに女房が草戸山 364m に登った。

北習志野駅発 8:29 東葉高速鉄道、九段下で都営新宿線に乗り換え、笹塚で京王線に乗り、10:43 高尾山口駅着・標高 190m。

草戸山は東京都八王子市にある高尾山の南東方向に位置しており、東京都八王子市と東京都町田市、神奈川県相模原市との境界線上にある。高尾山 480m より低い山である。

高尾山口駅からすぐに甲州街道に出るが、草戸山登山口への道が分からない。民家の人に聴き、ようやく四辻・草戸峠への標識を見つけた。民家の横の非常に狭い道を進み、登山道に入り坂道を滑りそうになりながら上る。11:27 四辻に。３方向に分岐しているが、昔はもう一方に道があったのだろう。

樹林帯の中を進み、多くの木の根が張り巡っている道もある。ところどころに標識があり、道に迷うことはない。先頭を歩く娘は、脇道が歩き易いようで、この先でつながるのだろうと進む。全く山ガールが板についてきた。一番好きなアンパンマンの人形を持って、孫は相変わらず元気いっぱい。たくさんの赤い実が付いている木があり、赤色が大好きな孫は実を取りポケットに入れるのに余念がなくて、大分時間を費やした。尾根道に達し、少し楽に歩ける。坂にロープが張ってあり、ロープを持って下る。３分岐点があり、計画したコースタイムでは６分で草戸峠である。随分早く来たなと思った。ところが、いっこうに峠に至らない。多くの登山者が行き来しているので、草戸峠まで後どの位か尋ねた。なんと、まだ四辻から草戸峠への半分くらいしか来ていない。筆者が見た３分岐点の一方は細い林道だろう、地図にある高圧送電線の鉄塔を見ていないだろうとのこと。慌てて娘に告げ、孫を急がせた。崩れかけた鉄塔があり、広場となっている。娘は腹が空かないと言って昼食を遅くしていたが、筆者と女房は通常の時間に朝食なので、このまま急いでいたら空腹でばててしまう。13:20、青色ビニールシートを広げて座り、娘の手作りのむすび・卵焼き・ウインナー・焼きナス・トマトなどの弁当で遅い昼食。

【左が本道、右は脇道】

【尾根道を進む】

暗くなり、ヘッドランプを付けて歩くようになっては大変と急いで昼食後の片付けをして進む。13:52 高圧電線鉄塔。14:20、木の根に腰掛けて休憩。14:25 草戸峠。樹間から雄大に広がる高尾山を仰いだ。また、そこには昨日熊出没との張り紙が付けてあった。

【草戸峠/熊出没の張り紙】

【樹林の向こうに雄大に広がる高尾山】

筆者は両方の杖に付けた鈴を鳴らしながら歩く。しばらくすると、こんな所に小鳥の巣箱が設置されており驚く。最後のちょっとした急登を登ると、14:49 草戸山山頂364mに到達した。木製の鳥居とコンクリート製の小さな社、草戸山364m の木製標柱、さらに展望台がある。しかし、樹間から高尾山口辺りの街並みが見えるだけで樹林以外の眺望がなくて、展望台に上がらずの光景とほぼ同様でがっかりした。持参の地図（昭文社発行、山と高原地図 28、高尾・陣馬(2018 年版）によると、南東方向に城山湖（木沢ダム）があるはずだが、見えず。また、ここにも草戸峠と同じ熊出没の張り紙がある。途中では登山者に何度も出会ったのに何故か、山頂には誰もいない。しばらく待って現れた人に、4 名が揃って筆者のデジカメで登頂記念写真を撮ってもらった。

【草戸山山頂への最後の登り】

【草戸山山頂の鳥居と社】

【樹間から高尾山口の街並みを望む】

15:21 下山開始。15:40 草戸峠。3 分岐点からは上りと違って、15:47、20 号へと書かれた小さな木板を見て、国道 20 号に向かって下山。樹林下の細い道を下る。坂道は湿っていて滑りやすく、ゆっくりゆっくり。それでも女房が滑ってしたたかに尻もちを突き、痛がる。16:05 石仏があり、ようやく林道・車道に下山した。付近にあった民家の横の田んぼにはカカシがあり、また猪・鹿よけの柵が張り巡らされていた。16:18 頃国道に至った。バスが通っているが、便数が非常に少ないとのこと。圏中央の高尾山 IC を眺め、地下道を通った後、高尾山口駅に到着。京王高尾線高尾駅、JR 中央線中央特快、東西線中野駅経由で北習志野駅へ。計画よりも約 1 時間近く遅れて帰宅した。

【草戸山登頂記念写真/孫はアンパンマンを胸に】

今回の登山は、次第に進行する不治の病・認知症の女房も一緒だったが、無事登頂出来た。筆者は 2 本の杖だが、女房は膝関節痛もなく、筆者よりも早く歩ける。長年ほぼ同じような生活をしてきたのに、何が原因なのだろうか。現在 80 歳の筆者も毎日の健康動を続け、後数年は登山を続けたいものである。

トンボ三昧の日々　その後

東京支部　S57 年　農学部卒　松沢 孝晋

2020 年８月・12 月合併号に「トンボ三昧の日々　長年の夢がかなった」という題目で投稿させていただいた。あれから約３年が経過し、トンボ三昧の日々も少しずつ充実し、楽しくなってきている。

◆四日市市川島町のトンボを調べていたら、川島小学校のPTA 広報誌に記事が載った

コロナが蔓延し、遠出ができないため、家から車で 10 分ほどのところにある三重県四日市市川島町の里山に生息するトンボを調べていた。ほぼ３日に１回は川島町の里山に出かけ、生息するトンボを調べた。鹿化川に下りてカワトンボなどを調べていたら、女の子を連れた若いお母さんに橋の上から声をかけられた。「なにやっているのですか～？」と聞かれたので、怪しまれたと思い「トンボ研究の目的で四日市市のトンボを調べています」と、いかにも地域貢献のための学術研究をやっているかのように装い、緊張気味に答えた。「あのー 取材させていただいてもいいですか？」とお母さん。予想外の展開。その若いお母さんは、娘が通う四日市市立川島小学校のPTA 広報部で広報誌を編集しているとのこと。断る理由もないので、「取材OK」とお答えし、フィールド調査の様子や川島町に生息するトンボについて取材を受けた。その後、数週間して広報誌（図１）ができあがり、川島小学校全児童の家庭に配布された。

この広報誌のおかげかもしれないが、川島町で有名人になってしまい、「川島こどもエコクラブ」から「トンボ観察会をやってほしい」という依頼がきた。この観察会はけっこうな人気で、2021 年から毎年やっている（図２）。トンボは子供も大人も楽しくさせる。

図１　川島小学校 PTA 広報誌「さんぽみち」
（2021 年６月）

図２　川島こどもエコクラブ　トンボ観察会
（2023 年９月 17 日）

◆四日市市エコパートナーになる

三重県四日市市にある「四日市公害と環境未来館」から「エコパートナーになってほしい」という連絡があった。エコパートナーになると、市の施設利用などいろいろ優遇してもらえるらしく、「やります」と即答した。市から承認され、「四日市市エコパートナー」になった。エコパートナーの紹介にあたり、「何か活動団体名がほしい」と言われ、「松沢孝晋（トンボ研究所）」ということで市のホームページで紹介していただいた（図３）。これまでなんとなく自信が持てず、内輪だけで使っていた「トンボ研究所」という名称を初めて外に向けて出すことができた。

エコパートナーの活動として、市の環境講座や観察会をいくつかやらせていただいている。2023 年１月から３月は、四日市公害と環境未来館活動室の展示スペースにトンボ研究所のコーナーを設けていただき、研究活動の紹介やトンボ標本等を展示させていただいた（図４）。

令和４年度　エコパートナー紹介 NO.36

松沢 孝晋（トンボ研究所）

活動紹介

■活動場所

四日市市を中心とした三重県北勢地域・東海地方　その他

■活動内容

三重県を中心にトンボ調査を実施。調査結果は論文等を通じて公表。

名古屋市、四日市市など東海地方を中心に、トンボの生態を軸とした環境講座を実施。

＜調査・研究＞

・2022年3月～6月：三重県菰野町図書館　運営のトンボ調査

・2022年3月～6月：三重県四日市市川島町のトンボ調査

・2022年4月：沖縄県ヤンバル地域のトンボ調査

・2022年5月～7月：菰野町（四日市市）・三滝川（四日市市）・朝日川（鈴鹿市）・内曲川（津市）・木津川（伊賀市）のトンボ調査

・2022年5月：トンボ研究会誌文誌「Aeschna No.58」の発行

＜観察会・環境講座＞

・2022年6月1日：読売王国～命きらめく鈴鹿のオアシス～「トンボの生態と水辺環境の維持を目指る」（主催：名古屋市東生涯学習センター）

・2022年9月18日：四日市市川島町川島地区市民センターでのトンボ講座（主催：川島地区社会福祉協議会）

＜論文・学会活動等＞

・論文：三重県四日市市川島町の湿地で確認したトンボ目 第2報（Aeschna 58:40-60, May15, 2022）

・学会活動：2022年11月「2022年度 日本トンボ学会大会（愛知大会）」を人間環境大学（愛知県瑞穂市）で開催。大会実行委員長。

・学会活動：日本トンボ学会 総務幹事・トンボ研究会 編集委員長

代表者の想い

トンボを通じて、自然環境や水環境を保全することの大切さについて、講座等を通じて伝えていきたいと思っています。

PR

実験がやっていた診療所の建物を引き継ぎ、2020年2月から、四日市市桜新町に「トンボ研究所」を作りました。トンボを中心とした活動の拠点としていく計画です。まだ整理中ですが、トンボ標本、文献資料も多数あり、トンボグッズなども展示しています。四日市市桜方面に来られることがありましたらお寄りください。

連絡：四日市市桜新町２丁目20（田水谷クリニック）松沢　孝晋

Email：odn.matuzai@silver.plala.or.jp　　Tel：090-2343-0187

図３　エコパートナー紹介ページ
（四日市公害と環境未来館 HP より）

図４　四日市公害と環境未来館活動室の展示スペースでのトンボ研究所コーナー

◆地域情報誌「YOU よっかいち」、三重県北勢地域の CTY「ケーブル News」で紹介される

2023 年の５月、三重県北勢地域の情報誌「YOU よっかいち」の取材を受けた。四日市公害と環境未来館のトンボ講座を受講された方からの情報とのことで、私が三重に戻ったいきさつやトンボ研究所での活動について記事にしていただいた（図５）。この記事がもとで、三重県北勢地域の CTY「ケーブル News」でトンボ研究活動が紹介された。10 分くらいの放送だったが、放送日から１ヶ月間 Youtube で公開されたので反響はけっこう大きかった（図６）。

この「YOU よっかいち」と「ケーブル News」のつながりで、TBS から電話があった。「オニヤンマのことで電話取材をお願いしたい」とのこと。この取材の内容は、TBS「ひるおび」の「虫除けグッズ おにやんま君」の特集で紹介された。

図５　「YOU よっかいち」の記事
（2023 年６月４日）

図６　CTY ケーブル News　トンボ研究活動の紹介
（2023 年６月６日放送）

◆故郷 菰野町（こものちょう）でトンボ展

2022 年から菰野町図書館の横にある調整池のトンボを調べている。この池は、福祉センターからの温水が流入しており、水温が高い。トンボの発生に変化があるのではと思い週２回の割合で通っている。その様子が評判になり、菰野町図書館のギャラリーでトンボの展示をやってほしいと言われた。三重県菰野町は私の故郷なので、初めての“ふるさと貢献”である。展示期間は 10 日間で、2023 年の 10 月６日から 14

日まで、菰野町図書館周辺で確認できたトンボを中心に生態写真の展示を行った（図7）。前述の「YOU よっかいち」にも記事を載せていただいた。故郷である菰野町にはずっと負い目みたいなものを感じていたのだが、この記事のおかげで、やっと地元に“自分”というものがわかってもらえたように感じた。

故郷と疎遠のままで、何十年ぶりかで故郷に突然Uターンした者にとって、何らかの形で故郷に貢献することは大事だと思った。機会を与えていただいた菰野町図書館に感謝です。

図7　菰野町図書館 ギャラリーでのトンボ展（2023 年 10 月 6～14 日）と「YOU よっかいち」の記事（2023 年 10 月 6 日）

「トンボ三昧の日々」を決めてから３年が経ち、トンボを軸にした地域のネットワークも徐々に充実してきた。コロナの影響で遠出ができず、近場である三重県内のトンボ調査をしかたなく続けていたら、今まで興味すら感じなかった三重県のトンボの楽しさや不思議さがわかるようになってきている。最近では近場のトンボに興味津々である。

題目とした「トンボ三昧の日々　その後」というのは、実は「その後」ではなく、ようやく「はじまり」にたどり着いたのかと思っている。　トンボ道は奥が深い。がんばろう。

日本百名山登頂を達成しました

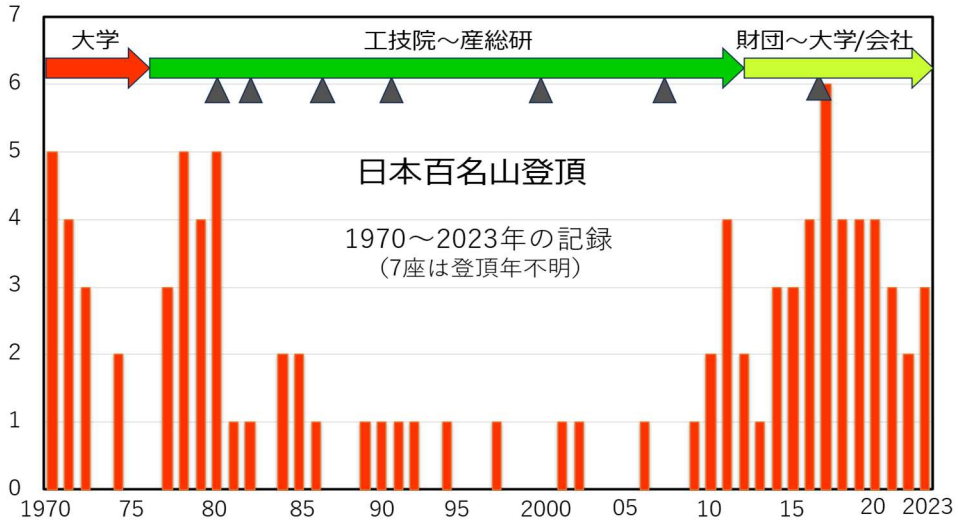
東京支部　S49 年　工学部卒　松永　烈

前回の近況報告で、「日本百名山完登に向け富士山、恵那山、美ヶ原の３つを残すだけとなりました」と報告いたしましたが、富士山については８月 21・22 日に「富士山峯入り修行」へ参加して、美ヶ原は9月 19 日に日帰りで、そして最後の恵那山には 10 月 23 日京都亀岡での OB 総会から帰る途中に登り、百名山完登を果たすことができました。1970 年、大学一年の夏合宿で最初の百名山朝日岳に登って以来、53 年もかけて漸く完登することができました。

８月 22 日富士山頂剣ヶ峰にて城戸君、古谷君と

10 月 23 日　恵那山頂で三木氏(産総研の同僚)と

この機会に手元に残る記録や資料をもとに、何時、誰とどの山に登ったのか取り纏めてみました。図１はそれらを基に何年に何座登ったかを表したものです。細かく見難いものとなっており申し訳ありません。



この図を見ると分かるように、百名山登頂数の変移は大きく 1970～80 年、1981～2010 年、2011 年以降の３つに大別できます。先ずは 1970 年代、大学時代は夏合宿で東北や中部山岳地帯、春合宿やフリーワンで九州、中四国の幾つかの山に登りました。その後埼玉県川口市にある研究所に就職し、関東周辺や中部山岳地帯の山々に登っていましたが、続く 1980 年代は、研究所の筑波移転、結婚、霞が関（工業技術院）への併任、更に 1982 年から 86 年にかけて、２度、２年４か月、日米独研究開発でのアメリカ派遣と続きました。その後、1990 年から２年間の NEDO 出向、山形県肘折での大規模現場実験、2000 年の独法化による産総研移行と続きました。産総研移行後は、2004 年研究部門長、2005 年首席評価役（地質分野）、2007 年中国センター所長、2009 年つくばセンター次長、2011 年首席評価役（環境・エネ分野）と目まぐるしくポストが変わりました。産総研の定年退職が近づいた 2010 年頃から再び百名山登頂数も大きく増えて現在に至っていますが、これについては後述します。

産総研退職後は、縁あって日本国際科学技術財団で５年（フル）、星薬科大学で１年半余り（週２日）働き、現在は日本基礎技術（NKG）で月１日働いています。科学技術財団を退職した 2017 年以降、百名山登頂数も増えましたが、コロナパンデミックの影響もあり 70 歳までには完登とはなりませんでした。

そもそも登山客で溢れる富士山や北アルプス、また山頂近くまで車で登れる山も多く百名山なんてどうでも良いと考えていたこともあり、関東周辺の比較的マイナーな山や、学会や現場実験のついでに近くの良さそうな山に足を延ばしていましたが、百名山を意識していたわけでなく数も限られていました。そのような中、2010 年、当時百名山登頂を目指していた城戸君から「今度南アの聖岳、光岳に登るが（大変そうなので？）一緒に行かないかと声掛けがありました。アクセスも大変そうだし、コースもきつそうだ。でも、なかなか行く機会もなさそうなので行って見るか‥と OK したのが契機となり、翌年の幌尻、トムラウシ、雌阿寒、十勝（城戸のみ）、2012 年空木岳、2015・16年笠ヶ岳（城戸君百名山達成）と同行しました。その時点でこちらの登頂数も残り 25 を切りそうだったので、70 歳までに百名山完登を目指すかとなった次第です。

その後、城戸君とは 2019 年の剣岳、2021 年の奥穂高、2023 年の富士山へ、他にワンゲル同期の古谷君や、筑波の研究所仲間や守谷のジョギング仲間等と 14 座、単独で 10 座登って完登を果たしました。

さてこれからどうするか？　関東周辺にも一登り、温泉でゆっくりという山も沢山ありますし、これ（正確には産総研で地熱開発に携わった 2004 年）まで現場実験や調査のために、北海道、東北、中部、四国、九州へ出かけた際、登ってみたいなと思った山も幾つかあります。これからは機会をとらえてそのような山々に行ければと考えていますが‥‥皆さんも行って見ませんか？

8.　OB の皆さまへのお願い

（1）ＯＢ会費の納入について

会費有効年を経過して会費未納の場合は自然脱会となりますので、会費の支払いはお忘れなきようお願い申し上げます。脱会になりますと、以後ＯＢ通信の発送等ＯＢ会からの連絡が途絶えることとなりますのでご注意願います。

会費有効年は、皆さまの宛名書きに記載していますが、今一度会費有効年を確認され、もし、相違している場合は、会長または事務局までお問い合わせ願います。

【ＯＢ会費の納入状況についての問い合わせ先】

次頁・会長宛お問い合わせ下さい。

会費有効年に応じて、鳳翮会新規(再)加入のご案内、会費納入について(お願い)、お知らせ、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票を同封しています。新規(再)加入及び入会を継続される場合は、お手数ですが、同封の郵便局払込取扱票にて下記へ納入くださいますようお願いします。同封文書は次のようになっていますのでご確認ください。

ア　新規加入の皆さま及びＯＢ会費未納のため２０２２年までに会員資格を喪失された皆さま

鳳翮会新規(再)加入のご案内、入会申込書、会則、郵便局払込取扱票

新規(再)加入を希望される場合は、郵便局振込とともに、入会申込書を送付いただくか、必要事項を会長宛てメールにてご連絡ください。

【送付先】

郵便番号７５３－０８４１　　住所　　山口県山口市吉田１６７７－１山口大学体育会内

宛先　　山口大学ワンダーフォーゲル部

イ　会費有効年が２０２３年の皆さま

会費納入について(お知らせ)、郵便局払込取扱票

口座記号番号　01530-0-16050

加入者　　山口大学ワンダーフォーゲル部鳳翮会

個人会員年会費　2,000 円（ 夫婦会員年会費　3,000 円 ）

※年会費は、複数年分を一括納入することもできます。一括納入の場合は振込金額を単年会費の複数年倍としてください。個人会員の場合、年会費を 1,000 円の端数で納入されないようお願いします。

新規または再度会費を納入される場合は、会費の有効年は納入年からとして取り扱い致します。

（2）ＯＢ通信の送付について

ＯＢ通信は本来会員の皆さまだけに送付することになっています。

（3）ＯＢ通信・鳳翮会 HP への寄稿について

事務局では、皆さまからのＯＢ通信の寄稿を常時受付けしています。掲載を希望される場合は、会長宛原稿を提出ください。なお、ＯＢ通信の発行の準備の都合上、原稿の提出期限は次のとおりお願いします。鳳翮会 HP は随時受付ます。なお、OB 通信の内容等についてご意見がありましたら、会長までお寄せ下さい。

（4）転居先連絡のお願いについて

OB の皆さまの住所確認については万全を期していますが、OB 通信の発送の都度、数通が転居先不明で返送されてきます。その後、お知り合いの方に転居先を確認し再送していますが、OB 通信の送付が遅れる原因になっています。**転勤等で住所を移転された場合、また連絡先（メールアドレス・電話番号）の変更があった場合は、速やかに会長までご連絡願います。**

同期世話人の方には同期の方の住所変更の連絡をお願いしています。同期世話人の一部の方でメールが不通となっています。**連絡先（メールアドレス等）の変更がありましたら同様に会長までご連絡ください。**

9．2023 年度　本部・支部役員連絡先

【本部】

・鳳翩会会長

田村　伊正（ 工・昭和５３年卒 ）

〒758-00525 山口県萩市土原 63-3

携帯　　090-3177-3876 （家電 0838-25-5775）

E-mail　tamurako@kyouwagrp.jp

・鳳翩会副会長

三國　彰　　（ 工・昭和 55 年卒 ）

田原　宏　　（ 工・昭和 57 年卒 ）

・鳳翩会幹事

田中　秀平 （ 農・昭和４７年卒 ）　　石川　忠　　（ 教・昭和 49 年卒 ）

古谷　眞之助（ 経・昭和５２年卒 ）　　坂田　信一 （ 理・昭和 57 年卒 ）

浅野　哲郎 （ 工・昭和 61 年卒 ）　　齊藤　昌彦 （ 農・昭和 60 年卒 ）　　※兼会計担当

・鳳翩会事務局長

坂本　新 （ 経済学部・４年生 ）

連絡先〒753-0841 山口県山口市吉田１６７７－１山口大学体育会内ワンダーフォーゲル部

・鳳翩会会計監査

平野　展康（ 経済・昭和 59 年卒 ）　日野　耕二（ 経済・昭和５８年卒 ）

【東京支部】

支部長　　城戸　賢嗣 （ 経・昭和４９年卒 ）

副支部長　　高田　哲生 （ 工・昭和４９年卒 ）

事務局長　　秋山　高弘 （ 経・昭和５３年卒 ）

【関西支部】

支部長　　池田　純　　（ 工・昭和５１年卒 ）

【山口支部】

支部長　　坂田　信一 （ 理・昭和 57 年卒 ）

支部幹事　　平野　展康 （ 経・昭和５９年卒 ）

支部幹事　　川地　翔子 （ 農・平成２６年卒 ）

【九州支部】

名誉支部長　　永沼　嗣朗 （ 経・昭和３９年卒 ）

支部長　　龍　純二 （ 文理・昭和５０年卒 ）

事務局長　　天野　雅紀 （ 経・昭和６１年卒 ）

【編集後記】　2023 年も昨年に引き続いて OB 総会を開催することができました。各支部でも積極的に活動されているようです。2023 年冬号の表紙は、山口支部のメンバーが防府市にある右田ヶ岳に登ったときの写真です。途中には険しい鎖場、岩場もあり、頂上まではかなりきつい山なのですが、頂上からの眺めは抜群で瀬戸内海や新幹線も見ることが出来ます。皆様も山口に来られた時は足を延ばして、一度登られてみてはいかがでしょうか。　　編集長　田原　宏

鳳翩会
山口大学ワンダーフォーゲル部OB会